

公開講座ダイジェスト2017

跡見学園女子大学公開講座の記録



ATOMI
UNIVERSITY

刊行にあたって

跡見学園女子大学は、学部学科編成の拡充によって、広領域の教員を配している。これによって、今年度の公開講座は、従来にない斬新な企画を行うことができた。

継続的に実施してきた語学、パソコン、くずし字の講座においても、2017年度は、マンネリズムを排すべく、いくつかの新たな企画を実施した。

英会話においては、イギリスの映画と社会、スコットランドの文化と伝統をテーマとする、やや高度なコミュニケーション力を身につける講座を開講した。またパソコン・コースではスマホに対応する音声付きホームページの作成に挑戦する企画を実現させた。

教養コースにおいては、提供する分野に一層の広がりを見せている。

春期公開講座（新座）においては、記憶や感覚の不思議世界を紹介し、こころの仕組みを探った。

春期公開講座（文京）では、ソーシャルビジネスの可能性を考え、子どもの貧困と地域社会の問題に触れ、リーダーとメンバーの接点を軸とするモチベーションの問題を提起した。

秋期公開講座（新座）は、さまざまな言語的・非言語的な表現を取り上げ、幸せになるコミュニケーション術を紹介した。

秋期公開講座（文京）では、昭和40年代の日本について、社会のあり方、復帰前の沖縄、大阪万博の舞台裏を紹介した。

次年度においては、さらに魅力的なテーマを模索し、公開講座の一層の進化を図る所存である。

平成30年3月

跡見学園女子大学

学長 山田 徹雄

CONTENTS

刊行にあたって	跡見学園女子大学 学長 山田 徹雄	1
春期教養コース (新座キャンパス)	「こころ」の仕組み 不思議不思議	3
1. 記憶の不思議不思議	本学文学部臨床心理学科教授 松寄くみ子	
2. 五感の不思議不思議	本学文学部臨床心理学科教授 宮崎 圭子	4
3. 認知の不思議不思議	本学文学部臨床心理学科教授 伊澤 成男	
春期教養コース (文京キャンパス)	現代社会を考える	6
1. ソーシャルビジネスの可能性—企業の力で社会問題を解決する	本学マネジメント学部マネジメント学科教授 笠原 清志	
2. 子どもの貧困と地域社会	本学マネジメント学部マネジメント学科教授 鳶 咲子	7
3. 現代社会のコミュニケーション論—リーダーシップとモチベーションから考える	本学マネジメント学部マネジメント学科教授 佐藤 敦	
秋期教養コース (新座キャンパス)	幸せになるコミュニケーション術	9
1. 聞き上手でハッピーライフ	本学文学部コミュニケーション文化学科教授 土屋 博映	
2. 着物コミュニケーション文化	本学文学部コミュニケーション文化学科准教授 マック・カレン	10
3. 視線と身ぶりのコミュニケーション	本学文学部コミュニケーション文化学科教授 吉澤 京子	11
4. 多言語社会日本におけるコミュニケーション	本学文学部コミュニケーション文化学科専任講師 吉田さち	
5. 日常にあふれる比喩表現たち	本学文学部コミュニケーション文化学科准教授 中村 聡	12
秋期教養コース (文京キャンパス)	昭和40年代前半の日本を旅する	14
	—日本列島の風景から復帰前の沖縄、大阪万博まで—	
1. 昭和41年3月の日本列島の旅	本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 小川 功 (ゲスト講師: 本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 松坂 健)	
2. 昭和42年3月の復帰前の沖縄	本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 小川 功 (ゲスト講師: 本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 塩月 亮子)	15
3. 昭和45年大阪万博の舞台裏	本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 小川 功 (ゲスト講師: 本学文学部人文学科専任講師 寺本 敬子)	
語学コース		16
英会話	責任講師: 本学文学部人文学科准教授 山崎 妙	
中国語会話	責任講師: 本学文学部人文学科准教授 安本 真弓	17
朝鮮・韓国語会話	責任講師: 本学文学部コミュニケーション文化学科専任講師 吉田 さち	18
くずし字読解コース	春期責任講師: 本学文学部人文学科教授 泉 雅博 秋期責任講師: 本学文学部人文学科教授 岩田 秀行	20 21
パソコンコース	春期 (新座) 講師: 本学文学部人文学科教授 福田 博同 秋期 (文京) 講師: 本学兼任講師 柴田 徹	23
受講生からのレポート		26
資料		30

公開講座春期教養コース（新座キャンパス）
「こころ」の仕組み 不思議不思議
平成29年5月20日～6月3日（毎週土曜日）〈全3回〉
〈講座責任講師〉 本学文学部臨床心理学科教授 宮崎 圭子

本公開講座は、『「こころ」の仕組み 不思議不思議』と銘打って講座をデザインした。担当講師は全員、臨床心理士を所有する臨床家である。

今、ポピュラー・サイエンスなるジャンルで、TVや雑誌等で「心」を扱った番組、記事が目につく。例えば、「モーガン・フリーマン 時空を超えて」「サイエンス ZERO」などである。私たちの一番身近で、日常で最も馴染みのある「心」は、21世紀最後のブラックボックスとも言われているほど、よく分かっていない。

そのような背景を踏まえて、臨床家である私たちが、敢えて、心の基礎にチャレンジしてみたのが、本講座の『「こころ」の仕組み 不思議不思議』である。

講座の構成と参加者数は以下です。ちなみに、参加応募者は184人であった。

1. 第1回(5.20) 「記憶の不思議不思議」
教授 松崎くみ子 参加者115人

記憶は次の「感覚記憶」「短期記憶」「長期記憶」という3つから成り立っていると言われている。「感覚記憶」とは非常に短い時間で消失するため、自覚するのが難しい現象である。しかし、ある実験の工夫によって、感覚記憶が発見された。本講座では、この感覚記憶の不思議テーマを扱った。

2. 第2回(5.27) 「五感の不思議不思議」
教授 宮崎圭子 参加者103名

「心」の五感(聴覚、嗅覚、味覚、触覚、視覚)の世界は驚異の世界である。私たちがその五感を通して認知している「世界」が本当にその世界そのままなのか、実はわかっていない。本講座では、その五感の不思議をテーマ

に扱った。

3. 第3回(6.3) 「認知の不思議不思議」
教授 伊澤成男 参加者109名

2010年、気分障害(うつ病等)に対する認知療法・認知行動療法が、医療保険の適用となった。本講座の最終講では、臨床心理学に戻って、認知療法、認知行動療法、行動療法、論理療法の理論と方法について、具体例を提示しながら紹介した。

アンケート結果を見ると、おおむね好評のようであり、安堵であった。学問としての「心」はWunt,W.M.以来、「科学」を目指してきた。そのため、その研究手法は一般の方々にはやや難解である。それをどう噛み砕いて、興味を引き出すよう呈示するかプレゼンテーションの技法も問われよう。

〈第1回 5月20日〉

記憶の不思議不思議

本学文学部臨床心理学科教授 松崎 くみ子

「記憶」の研究は、心理学の中でも長い歴史を持っています。昔から、そして現代においても、「記憶」はとても興味深い現象の一つです。

「記憶」の研究は、エビングハウスの無意味綴りを用いた研究から始まります。エビングハウスは記憶という目に見えない心の現象を、「節約率」を計算する、という工夫を用いて数値化しようとしました。

また、私たちの「記憶」は、大きく3つの部分に分かれているといわれています。「感覚記憶」「短期記憶」「長期記憶」です。「感覚記憶」は、非常に短い時間で「消失」するので、自覚するのが難しい現象です。けれども、あ

る実験の工夫によって、この「感覚記憶」が「発見」されました。

このように、心理学における「記憶研究」は目に見えない心の現象を、何とか科学的に捉えようとする心理学者たちの工夫の歴史ともいえます。当日は、簡単な記憶実験に参加していただいたりしながら、「記憶」の不思議に少し触れて頂けたと思います。

〈第2回 5月27日〉

五感の不思議不思議

本学文学部臨床心理学科教授 宮崎 圭子

公開講座『「こころ」の仕組み 不思議不思議』の第2回目「五感の不思議不思議」を担当した。

公開講座の参加者の方々は、概ね、「こころ」に興味をもっているものの、「心理学」にはあまり馴染みのない方々であろう。

昨今、テーマパークや観光地では不思議体験ミュージアムのような館が人気である。主に、錯視を扱って、不思議ワールドを体験してもらう趣向である。

それを少々拡大して、聴覚と視覚をテーマに、私たちが日頃当たり前のように本物と感じて(認知して)いる世界がいかに頼りないものであり、その認知している世界がいかに面白いものかを感じてもらいたいと考えた。

講座のデザインとして、気を付けたのが以下の点である。

1. 視覚教材をできるだけ取り入れて、実感型とする。
2. 参加者に考えてもらうスモールエクササイズを複数取り入れる。
3. ペアを組んで実施するようなエクササイズを取り入れ、体験型とする。
4. 心理学は科学である。ただ実感する、体験するだけではなく、その根拠も提示する。

二部構成とした。第1部は「聴覚の不思議不思議」、第2部は「視覚の不思議不思議」で

あった。

第1部はいきなり1枚の写真を提示し、参加者に何かおかしい点がないか見てもらった。数人の方がボランティアで回答してくれた。そのため、会場は何となく積極的な雰囲気になっていき、有り難かった。種明かしをした後、「聞こえる」ということのメカニズムを概説した。

第2部はボールペンの赤色はなぜ赤に見えるかという質問を投げた。そのメカニズムを概説した後、動物達が見ている世界をスライドで紹介していった。その後、錯視を応用したスライドを数枚提示し、しばし、不思議の世界に浸ってもらった。その後、私たちの「見る」という作業が、いかに不安定なものであるかを概説した。

講座終了後、10人ぐらいの参加者が教卓の周りに来られ、色々質問をされ、30分以上時間がかかった。しかし、本講座の内容に興味を持っていただけた証しである。

反省点として(アンケート結果より)、配布資料がやや乏しかったことが今後の課題である。

〈第3回 6月3日〉

認知の不思議不思議

本学文学部臨床心理学科教授 伊澤 成男

一般的に「こころ」は知・情・意に分類され、行動と対比される。感情の心理学理論として有名なものには、ジェームズ・ランゲ説やキャノン・バード説などがあり、認知に関する心理学的理論にはピグマリオン効果や光背効果、そして様々な認知バイアス理論などが挙げられる。

現在、認知行動療法は、多数の心理療法の中で最もエビデンス(科学的根拠=再現性・予測性・安定性)のある心理療法の一つとされ、うつ病、不安障害、社会恐怖、恐怖症、PTSD、摂食行動、強迫性障害、不登校、対人関係の問題その他で効果が報告されてい

る。背景となっている理論は、認知療法、行動療法、論理療法、帰属療法などである。

論理療法では、出来事と結果はダイレクトに結びついているのではなく、その間に「ビリーフ」（考え方、信条、信念、思い込み、価値観）というものがあって、結果があるのだという考え方をする。そして、“～ねばならない”（ex.誰からも愛されなければならない）といった、自己妨害的で不合理な考え方をイラショナル・ビリーフと呼び、それが“～に越したことはない”（ex.みんなから愛されるに越したことはない）といった健康的で合理的な考え方（これをラショナル・ビリーフと呼ぶ）に変化することを目指す。

行動療法は、思考過程や意識、感情、態度などより、観察可能な「行動」を中心に考え、「問題」に焦点を当て、症状の除去、行動の変容を目指す。「学習」という概念を中心に、条件付けやモデリング理論が行動変容の原理である。

認知療法は、「認知」が感情や行動を媒介するという認知モデルを取り、認知はさらにスキーマや推論機能、自動思考などに分類される。自動思考とは、その場の状況や相手などに応じて、意図せずに脳裏にふと浮かんできてしまう考えや言葉のことを意味する。また、帰属療法では、身のまわりに起こるさまざまな出来事や自他の行動に関して、その原因を推論するが、これがネガティブな自動思考と結びついた時にうつ病等になりやすく、適応の問題に深く関係するとされる。

公開講座春期教養コース（文京キャンパス）

現代社会を考える

平成29年6月10日～6月24日（毎週土曜日）〈全3回〉

〈講座責任講師〉本学マネジメント学部マネジメント学科教授 笠原 清志

同公開講座は、文京区・公益財団法人文京アカデミーの後援を得て、「現代社会を考える」というテーマのもと、第一回（6月10日）：「ソーシャルビジネスの可能性—企業力で社会問題を解決する」（本学マネジメント学部教授、笠原清志）、第二回（6月17日）：「子どもの貧困と地域社会」（本学マネジメント学部教授、鳥咲子）、第三回（6月24日）：「現代社会のコミュニケーション論—リーダーシップとモチベーションから考える」が行われた。今回は、課題テーマが今日的であるところから、例年より多い100名以上の受講者があった。

また、「この講座の難易度はあなたにとって適切でしたか」という問いに対しても、第一回目が86%、第二回目が88.7%、第三回目が98.2%の受講者が「適切であった」と答えている。「配布資料、スライドなどの量は適切でしたか」という問いに対しても第一回目が82%、第二回目が86.8%、第三回目が67.3%の受講者が「適切であった」と答えている。また、「今後も、また本学の公開講座を受講したいとおもいますか」の問いについても、第一回目が92%、第二回目が92.5%、第三回目が98.2%の受講者が「適切であった」と答えているところから、今回の公開講座は時宜を得た企画であったと思われる。他方で、今後、講座に関連して、資料準備や配布に多少の検討が必要であると思われる。

大学の公開講座は大学の持つ知を社会に還元するだけでなく、大学が地域や社会との接点を持つことによってより開かれたものにな

るということである。大学が地域や社会とともに当面する課題について議論し、問題解決のプラットフォームを提供することが求められている。

〈第1回 6月10日〉

ソーシャルビジネスの可能性

—企業力で社会問題を解決する

本学マネジメント学部マネジメント学科

教授 笠原 清志

現在、それぞれの国では多くの社会問題（貧困、格差、疾病、教育、福祉、環境、そしてエネルギー等）を抱えて、その解決策を求めて苦しんでいる。従来までは、このような問題は政府や行政の社会政策の対象として考えられてきた。あるいは、個人の側からするボランティアや慈善事業の一環として対応されてきた。しかし、国や行政は財政難に悩み、あらゆる問題に対して対応することには限界がある。他方で、ボランティアや慈善事業の場合、素晴らしい人間性の在り方ではあるが、事業のサステナビリティ（持続可能性）に欠ける。

以上の文脈の中で、企業が持っているリソースを用いて、ビジネスの力で社会問題を解決しようとするソーシャルビジネスの在り方が注目されている。ソーシャルビジネスは、「ソーシャル」という視点から社会問題に対応し、また「ビジネス」であるという視点から損を出さず事業の持続性を保証することが出来るというものである。公開講座では、ゼミの学生たちと検討した

1)「ベトナムでの給食支援を通じた食育思想

の普及、そしてビッグデータによる新しいビジネス創造のサポート——味の素とベネッセとの協働を通じて」、

2)「化粧を通じた新しい社会参加の可能性、本業に根差した CSR とコラボレーションメディアによる企業ブランドの確立——資生堂と BRAC との協業を通じて」の二つのビジネスモデルが紹介された。講演終了後、それぞれの企業にこれらの提案を採用・実践してもらうためには、何が必要か、という点を巡って活発な質疑応答がなされた。

〈第2回 6月17日〉

子どもの貧困と地域社会

本学マネジメント学部マネジメント学科

教授 鷹 咲子

給食費未納問題を手がかりに、義務教育においても給食費などの保護者負担が大きいという問題について考える。給食費未納問題については、親のモラルの問題として捉える懲罰的な対応ではなく、子どもの貧困のシグナルと捉える対応が必要である。

未納問題が生じる裏側には、生活保護や就学援助による支援が十分に機能していない面がある。行政による支援は申請主義がとられ、支援が必要な保護者は自分で生活保護や就学援助制度を申請しなければ援助は受けない。しかし、本来対象となるべき低い所得階層の人ほど、支援制度や申請方法についての情報が伝わりにくい情報弱者が多い現状がある。支援を必要とする家庭が対象から漏れてしまう状況がある。

経済的な困難を抱えながらも、周囲の目を気にして、生活保護や就学援助の申請に負い目や心理的抵抗を感じてしまう場合もある。このような傾向は、生活保護など福祉の支援を受けることに対する世間の厳しい見方によっても助長される。

給食費の未納がある家庭は、税金・社会保

険料など他の未納がある可能性がある。収入があるように見えても、借金の返済のために、給食費・税金・社会保険料・公共料金などの支払いが滞ることがある。このような家庭の子どもに、地域社会はどのように対応すべきだろうか。

未納や滞納から子どもの貧困を発見しようとする先進的な自治体の試みに対して、保護者の責任をことさらに主張する立場もある。このような意見は、子どもは親の所有別ではなく別の人格として尊重されるべきであるという子どもの権利条約の考え方の理解が不十分である。子どもを貧困な状態に放置しておくことは、児童虐待の一種であるネグレクトの状況に放置しておくことと等しく、行政の積極的なアウトリーチが必要とされるべき課題である。

これらを踏まえ、子どもの貧困に関する今後の課題として、(1) 公に対する信頼の回復 (2) 関係機関の連携 (3) データの収集と公開の必要性を指摘する。

〈第3回 6月24日〉

現代社会のコミュニケーション論

——リーダーシップとモチベーションから考える

本学マネジメント学部マネジメント学科

教授 佐藤 敦

現代社会では、企業、家庭などでのコミュニケーションは、アナログとデジタルが入り乱れ、ハラスメントなど閉塞感が漂っている。人は感情の動物とも言われ、知や論で接すれば角が立つもの。ここでは、経営コンサルティングや経営心理学の視点から、リーダーとメンバーの接点やモチベーションを考える視点を提供した。約 60 名の方に聴講いただき、終了後、活発に質問をいただいた。

講演概要は以下の通り。

1. はじめに

自己紹介と講演の狙いを述べた。

2. リーダーシップとは

3つの要素「夢づくり」「場づくり」「人づくり」があること、それぞれの内容を解説した。

3. 部下と上司が接する4つのポイント

ここが講演の中核であり、部下と上司、親と子、友人同士が接するポイントを分解・解説した。ややもすると、言語コミュニケーションに走りがちだが、大事なことは、①観る「観察する」こと、②背中で「見せる」ことの非言語部分であることを強調した。

- ① 観る：観察すること、見守る
- ② 見せる：背中で示すこと、やってみせる
- ③ 聴く：話や本音を聞き相談に乗る
- ④ 伝える：課題をフィードバックし、
どうしたらよいかアドバイスする

4. ベストプラクティス紹介

経営コンサルティング時の取材や対話で得た、部下が生き生きと働く職場の、上司の実際の取り組み事例を紹介した。

5. モチベーション論（人づくり）

マズロー欲求5段階説やハーズバーグの動機・衛生要因説を紹介し、事例を理論的に裏付けた。

6. ファシリテーション論（場づくり）

最後に、チームワークの基礎となる場づくり理論を紹介し、事例を裏付けた。

7. 参考文献

以下を紹介し、講演のレビューに活用願った。

- ・『リーダーシップとモチベーション』

佐藤敦、三菱総合研究所 HP

http://www.mri.co.jp/service/pdf/service_004.pdf

- ・『歴史的偉人に学ぶ経営学』

佐藤敦、WJC 誌

<http://worldjc.com/management/>

公開講座秋期教養コース（新座キャンパス）

幸せになるコミュニケーション術

平成29年10月7日～11月11日（11月4日は除く）（各土曜日）〈全5回〉

〈講座責任講師〉 本学文学部コミュニケーション文化学科教授 小坂橋 靖夫

10～11月の土曜日午後に90分間の5回の講座を、本学科の専任教員5人がおこなった。コミュニケーションには「ことば」が欠かせないと思ってしまいそうだが、「非言語コミュニケーション」もある。今回の5回の講座は、言語コミュニケーション3、非言語コミュニケーション2という内容であった。

第1講座の「聞き上手でハッピーライフ」（土屋博映教授）は、ことばをたくさん身につけて相手の考え・行動を受け入れることが必要だとし、「アドラーの心理学」「風姿花伝」「徒然草」「ソシユールの言語学」などの名著・名言を例に、人生が楽しくなると話した。

第2講座の「着物コミュニケーション文化」（マック・カレン准教授）は、大学で和服を着こなすアメリカ人女性講師が、江戸時代の雛形本（ファッション図）と浮世絵を題材に、「判じ物」なども扱った練習問題を配付し、楽しく知識を得ることは幸せだと話した。

第3講座の「視線と身ぶりのコミュニケーション」（吉澤京子教授）は、視線・表情や身ぶり・手ぶりを使うメッセージについて、「最後の晩餐」など15～17世紀の西洋絵画における創作意図をさぐり、現代の宣伝ポスターにまでつながる普遍性をさぐった。

第4講座の「多言語社会日本におけるコミュニケーション」（吉田さち講師）は、増加する外国籍住民が“日本の多言語化社会”において、災害時における情報弱者となるおそれがあるいっぽう、個人でできる日本語支援として「やさしい日本語」を紹介した。

第5講座の「日常にあふれる比喻表現たち」（中村聡准教授）は、作家などでない一般の人の日常生活で、比喻表現（「月見そば」「鏡餅」「東京スカイツリー」「やかんが沸く（沸

くのは水）」など）を、無意識のうちに使いこなしていることを実感してもらった。

5回の講座の全体タイトルが、「幸せになるコミュニケーション術」と、ちょっと気になるものであったためか、受講者側に注目されやすかったと思うし、講師も少し広げた内容が話せたのではないだろうか。

なお、アンケートの中では、受講者のうち年齢を答えてくれた人78人のうち半分が50歳以上であり、若い世代にもっと聴いてもらいたい内容だっただけに残念な気がする。しかし「営業の仕事に生かしたい」「積極的・前向きなたくみな話術で笑顔になれた」など、今後の励みとなる回答もいただいた。

〈第1回 10月7日〉

聞き上手でハッピーライフ

本学文学部コミュニケーション文化学科

教授 土屋 博映

「コミュニケーション」の極意は、「聞き上手」ということを大前提として、公開講座を行った。まず他者（相手）の考え（発言・行動）を受け入れることが大事であることを、とくに強調した。相手を認めることによりコミュニケーションが広がり、友人が豊富になると同時に、価値観が広がり、世界が広がり、人生がどんどん楽しくなるということを理解させた。今の自分のポジションに不満を抱くより、徹底的に楽しんでやろうという気持ちで生きることが最も大切で、それを身に付けるコツを、実例を挙げ具体的に講義した。

内容は、「一、名著に学ぶ」「二、世の中を広げる」「三、宇宙の歴史」「四、人間と死」「五、生活から」「六、聞き上手」「七、まと

め」の七項目だが、今回はとくに一に重点をおいた。

一で取り上げたのは、「1、アドラーの心理学」「2、般若心経」「3、論語」「4、老子・荘子」「5、歎異抄」「6、風姿花伝」「7、徒然草」「8、ソシュールの言語学」「9、ショーペンハウエルの哲学」など。それぞれを、講師独自の解釈を、わかりやすく述べた。

1では、「どこから」ではなくて、「どこへ」というアドラーの考えを、2では、「色即是空空即是色」を、3では、「人の己を知らざるを憂えず。己の人を知らざるを憂う」を、4では、「怨みに報いるに徳をもってす」を、5では、「善人なおもて往生をとぐ。いわんや悪人をや」を、6では、「初心忘るべからず」を、7では、「花はさかりに、月はくまなきをのみ見るものかは」を、8では、「言語記号は恣意的である」を、9では、「最初にあるのは我で、それから世界が存在する」などの、いわゆる「名言」を伝えた。聞き上手になるには、よい言葉を沢山身に付けることも重要だと知らせた。

最後に、聞き上手になるには、価値観を広げなくてはならず、その一番の近道は、「読書」で名言を学ぶことであり、「言葉は、文化の宝庫である」ということだとまとめた。

〈第2回 10月14日〉

着物コミュニケーション文化

本学文学部コミュニケーション文化学科

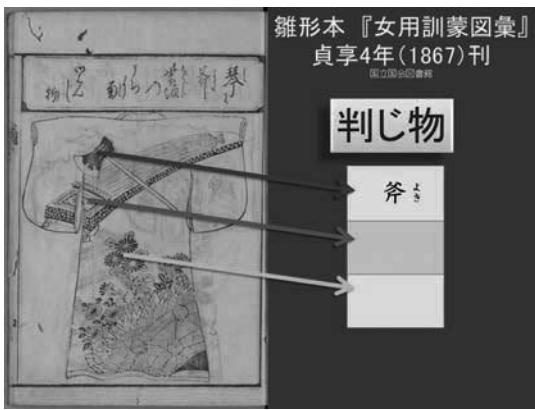
准教授 マック・カレン

今でもあることだが、特に江戸時代には、着物の種類、着こなし、柄・模様によって、非言語コミュニケーションがさらに一般的だった。(絵暦・看板娘の名前の判じ絵・役者の動物似顔絵など) また、これは異文化コミュニケーションとも関連している。異文化コミュニケーションといえば、例えば東洋文化と西洋文化等と思いがちだが、実は性別、

年齢、職業、出身地などの違いによって、異文化コミュニケーションがあらわれる。この講座で主に扱ったのは、江戸後期の雛形本(ファッション図)と歌麿、国芳の浮世絵で、異文化コミュニケーションとして、現代と江戸時代の時代の違い、また山の手文化と下町の江戸っ子の文化の違いである。

今回は「着物コミュニケーション文化」の講義をインタラクティブラーニングで行った。当然、70人前後の参加者で、インタラクティブラーニング式で行うのは難しい。そのために、講義のパワーポイントをそのままを印刷したものではなく、講義のパワーポイントを基に、参加者の方々のために練習問題などを入れたワークブックを印刷した。そうして、江戸後期の着物が「読める」ようになるために、最初はアイデンティティーと異文化コミュニケーションを説明して、下町の江戸っ子のコミュニケーション文化が分かるようになるため、おやじギャグみたいな「布団をひくか、しくか」を皆に聞いた。続いて、江戸っ子の発音と遊び心を説明して、食べ物の判じ物(魔黒など)から着物の判じ物の(斧琴菊など)までの練習問題をした。それから、幕府の禁止令にたいしての浮世絵師の遊び心、(絵暦・看板娘の名前の判じ絵・役者の動物似顔絵)について話した。最後に着物の「弁慶格子」柄名の由来と意味から、現代の「ギンガムチェック」柄と「ラージチェック」柄までの流れと異文化コミュニケーションについて話した。その後に、講義の全体のまとめで終わった。

講義が終わってから、多くの細かい質問があり、ワークブックの練習問題の答えの確認のお願いもあった。一番嬉しかった「もっと、もっと聞きたい」というコメントもけっこうあったので、講義が良かったのかなと思われた。



〈第3回 10月21日〉

視線と身ぶりのコミュニケーション

本学文学部コミュニケーション文化学科

教授 吉澤 京子

「目は口ほどにものを言い」「目は心の窓」と諺にあるように、人間は視線や表情、身振り手振りで意思を表すことができる。コミュニケーションの構成要素を「言語表現（言葉そのものと周辺言語）」と「非言語表現（表情、アイコンタクト、スマイル、身体表現等）」に分け、聞き手が話し手の何から影響を受けるかを調査したところ、「言語」対「非言語」の比が3対7になる、という研究結果も報告されている。

主として15～17世紀の西洋絵画に描かれた人物の視線や身振りの表現によって、絵の作者がどのような意味を人物に託し、何を表そうとしたのかをコミュニケーションの観点

から考察しようとしたのが本講座のねらいである。

事例としてレオナルド・ダ・ヴィンチの肖像画《モナ・リザ》と《白テンを抱く婦人》をとりあげ、女性の視線の先には何が（誰が）想定されているのか、や表情や身ぶりによって、女性がどのような立場にいたのかを考察し、次いでより多くの人物が多様な身ぶりを示す同じ画家による《最後の晩餐》を観察した。視線・身ぶりとも多様な登場人物それぞれの心理を推察し、人物相互のコミュニケーションを読み解いた。

さらにカラヴァッジョの聖マタイを描いた2点の作品の中で天使や人間が見せる身ぶり、手ぶりが作品全体の意味を有機的に説明していることを述べた。手ぶりについては、数を伝えるさいの手の指の使い方が西洋と日本とは異なること等の例もあげ、多文化社会におけるコミュニケーションのヒントを示した。

次に絵に描かれた人物から強い視線を感じたり、何かに注目するようにながされるような気持ち、呼びかけられているような気持ちになったりするようなケースについて取り上げた。このような人物の描き方は、ルネサンス期の宗教画から現代の宣伝ポスター等にも見られるように時代や文化の垣根を超えた普遍性をもっているが、それだけに同じ手法の政治的なプロパガンダへの利用が歴史上しばしば見受けられることを指摘した。

〈第4回 10月28日〉

多言語社会日本におけるコミュニケーション

本学文学部コミュニケーション文化学科

専任講師 吉田 さち

報告者は、「多言語社会日本におけるコミュニケーション」というタイトルの講座（2017年10月28日）を担当した。

内容は、「在日外国人と使用言語」・「在日外国人の言語問題」・「個人にできる日本語支援

- やさしい日本語 -」の3部構成とした。

第1部の「在日外国人と使用言語」では、統計資料から在日外国人の数やその公用語について確認した。それを踏まえて、担当者の専門領域である在日コリアンのコミュニティにおける言語使用について、オールドカマーとニューカマーの使っている言語の違い、世代による母語の取り換え、民族学校でのコード切り替えなどの現象について事例を挙げながら解説した。

次いで、第2部「在日外国人の言語問題」では、とりわけ災害時における情報弱者としての問題、自言語の維持・継承の問題、外国人に対する言語行動の3点を取り上げた。先行研究を紹介しながら、災害時には、英語よりもやさしい日本語での情報提供を求める人が多くいたこと、移住者の母語を継承するために母語で教育を受ける必要があること、日本人は初対面の外国人の外見が明らかに外国人だと判断すると英語を使う傾向がみられること等を紹介した。

第3部「個人にできる日本語支援 - やさしい日本語 -」では、「やさしい日本語」という概念を紹介し、「やさしい日本語によるニュース」と「通常ニュース」を実際に聞き比べてもらった。「やさしい日本語」は在日外国人のみならず、日本人にとっても役立つものであり、特に公的文書ではやさしい日本語で書き換えることが分かりやすくなることについて例を挙げて説明した。

受講後のアンケートには、「世の中一般で、'母国語'が普通と思っていたが、'母語'というのがあるのを知りました。違和感はあるけど、本質をみる、多様性で、広く受け入れる考えでいきたいと思います。」、「日本は単一言語社会だと認識していたので、今回の講義は非常に役に立った。(意識を改めるのに)又、多言語必要性の一つに、日本人の優しさがあるのでは。例えば、韓国、中国、アメリカ、フランスなどでは、日本は、外国人に丁寧に看板

表示などしていないように思います。(私の経験から)経済面からの多言語の必要性の視点があっても良かったのでは。」等、今後の教育・研究の参考となるご意見が多数寄せられ、ありがたく感じている。

今後の課題としては、90分にしては多くの話題を入れ過ぎて最後が駆け足になってしまった点や、もう少し映像・音声・画像などの資料を多く取り入れて受講生の興味をひかせる工夫をすべきだった点が挙げられる。今後の講義や公開講座の際に活かしていきたい。

〈第5回 11月11日〉

日常にあふれる比喩表現たち

本学文学部コミュニケーション文化学科

准教授 中村 聡

「比喩」と言えば、文学作品や歌詞などで使われる、意表を突く言語技巧という認識が強いだろうが、講義で取り上げたのは、私たちが日常表現として無意識に使っている比喩表現である。

「月見そば」「鏡餅」「きくらげ」「湯葉」「東京スカイツリー」では、類似性に基づく比喩である「メタファー」を使っている。メタファーを使った商品名はそこかしこに見つけられる。人名にもメタファーはよく使われる。花の名前を含むものはその典型である。たとえば「すみれ」では、小さな堇の花がもつ可憐なイメージを、誕生した子供に結びつけて名付けている。サザエさんの登場人物の名はメタファーと言ってよい。「進路」「人生の岐路」「人生山あり谷あり」「人生を振り返る」といった表現は、「人生は道である」というメタファー的概念にもとづいている。

隣接性に基づく比喩である「メトニミー」も日常的な表現に多く見られる。「やかんが沸く」では、実際に沸くのはやかんに入っている水であるのに、水を入れているやかんを使って表している。「武蔵野線」は府中本町-西

船橋間の線路のことであるが、「武蔵野線に乗る」の場合は、その上を走る車両を表している。「便所に行く」は、便所に空間的に隣接する手洗い場を使うことで、「お手洗いに行く」と婉曲的に言うことができる。アメリカ英語でトイレの婉曲表現として bathroom を使うのも、便器と浴室が隣接している住宅事情のため、メトニミーと言えらるだろう。最近の若い人たちが一万円紙幣のことを「諭吉」と言うのもメトニミーである。

上に挙げたような比喻表現は、日常言語の中に定着しているため、新鮮味が感じられるものではない。それほど身近な存在であるからこそ、私たちは普段、比喻とは意識していない。講義でお話した「理屈」を意識して身の回りのことばを観察してみると、言語の奥深さを愉しんでいただければ幸いである。

公開講座秋期教養コース（文京キャンパス）

昭和40年代前半の日本を旅する一日本列島の風景から復帰前の沖縄、大阪万博まで—
平成29年12月2日～12月16日（毎週土曜日）〈全3回〉

〈講座責任講師〉 本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 小川 功

昭和が遠くなり、やがて平成も消えてゆく中、自分自身が青春時代を謳歌した約50年前の昭和40年代前半がどういう時代であったかを一証言者として後世に伝えることも、年々高齢化で国勢が目に見えて衰退していく一方の現在において相応の意味があるものと考えた。即ち昭和39年東京オリンピックから昭和45年大阪万博までの日本は正に高度成長のまっ最中で、あらゆる事物・事象が時々刻々大きく変貌しつつあったが、一面では当時学生であった自分を含め多くの一般庶民が楽観的に「ますます良くなる一方」と期待し、明るい未来の繁栄を信じて疑わなかった幸せな時代でもあった。

疎開先で生まれ、引き揚げた証言者個人にとって昭和20年代は敗戦・混乱・進駐軍支配の時代(沖縄流に言えば「あめりか世」)で、超満員の殺人列車を尻目に連合軍専用車両が優先疾走し、洋式ホテルは接収され旅行どころでない時代。続く昭和30年代は「やまと世」に復帰し、東京五輪で幕。「高度成長期」の昭和40年代は大阪万博を契機に庶民が旅行に出て行ける時代に突入した。

この時代に幸運にも青春期を学生・若手サラリーマンとして過ごした証言者が体験した数々の旅行・イベントの中から強く印象に残るものとして①昭和41年3月日本列島一周の鉄道旅、②昭和42年3月復帰前の沖縄への船旅、③昭和45年大阪万博の舞台裏の三つをあげ、乏しい当時の記録類を総動員し、薄れゆく記憶を呼び戻して証言を試みたところ、参加者から「何ごとも資料を残して置くことが大切」との声も頂いた。

各回テーマに相応しい各分野の研究者・松坂健、塩月亮子、寺本敬子3氏に専門の立場

から証言の背景や意義、特性等を配布資料に基づき客観的にコメントして頂いたが、内容豊富なため持ち時間が短くて残念との声が多く出された。また当講座の趣旨に賛同しご参加下さった同世代経験者・同好者各位からの貴重なご教示・ご協力に深謝したい。

〈第1回 12月2日〉

昭和41年3月の日本列島の旅

本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科
教授 小川 功

ゲスト講師：

本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科
教授 松坂 健

東京五輪と大阪万博の間の昭和40年代前半、学割の50%特典をフル活用、ひたすら国鉄に乗り続けて、国鉄のない沖縄を除き日本列島をほぼ一周した。連続切符を駅で一苦労の末購入し、ほぼこの通り乗り通し、「稚内発枕崎行」等の切符各片を手元に無事回収、今回冒頭にご披露した。観察した列島各地の昭和レトロな原風景を基本はモノクロ、部分的に当時は高価だったカラー写真で紹介し、変貌、発展し続ける当時の雰囲気証言した。最後の質疑の際に、鉄道旅の出発を上野駅で見送ってくれた学友が大阪から駆けつけ、こんな馬鹿な旅が決してウソではない事実を述べてくれた。証言に先立ちホテル旅館研究のプロ・同学科教授松坂健が戦後日本の政治、経済はもとより、文化・芸術・風俗等の歩みの中でこの時期を境に大きく変貌を遂げた具体的事例を多数挙げ、昭和45年の注目すべき画期性を力説した。

〈第2回 12月9日〉

昭和42年3月の復帰前の沖縄

本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科
教授 小川 功

ゲスト講師：

本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科
教授 塩月 亮子

パスポートならぬ内閣府発行の奇妙な「身分証明書」の交付を受け外貨を購入、神戸港で通関手続きを経て、船内に鳴り響く琉球民謡に洗脳されつつ船酔いに悩まされながら波路遙かに到着した。祖国復帰前「あめりか世」の沖縄は証言者自身が経験した昭和20年代の悪夢の再来で、米軍支配下の沖縄の非日常世界を画像で紹介し当時の屈辱的な雰囲気証言した。密かに期待した本島での鉄道の痕跡は空襲・艦砲射撃で跡形もなかった。これに対し八重山諸島は古き良き琉球王国の雰囲気残り、目障りな米兵の姿もなくリゾート気分を満喫した。

後半に沖縄を文化人類学のフィールドとする同学科教授塩月亮子が沖縄の文化・芸術・風俗等の歩みの中で、日本の中での沖縄の特異な位置や、祖国復帰前の特殊事情に触れ、現代の変貌した姿を語り、証言者の見た事象の意味等につきコメントした。

〈第3回 12月16日〉

昭和45年大阪万博の舞台裏

本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科
教授 小川 功

ゲスト講師：

本学文学部人文学科専任講師 寺本 敬子

民芸品等を展示した日本民芸館という人類の進歩と一見無縁で超地味なパピリオン出展企業の新入社員として、万博事務局そのものではないが万博スタッフと至近距離で勤務、期間中は応援要員として何度か民芸館を手伝い、裏方の一員として世紀のイベント・万博

と遭遇した。当館が沖縄の素晴らしい民芸品を多く出展したため、沖縄での知見が早速役立つ。

人類の進歩をひたすら夢想・崇拜する“万博少年”ならぬ、科学技術と無縁な文系プロパーの万博社会人なるがゆえに、米ソの宇宙開発プロパガンダ等に興味薄く、行列に並ばずにすむ中小・零細館通いに終始した。古臭い鉄道・少数派のタンゴ愛好者らしく、クラウス17号=加悦鉄道古典車両や、タンゴが生演奏されるアルゼンチン館等を熱心に見学し、万博なる非日常と遭遇したという非主流派の万博の片隅体験を証言した。なお冒頭に参加者有志の御協力の下に証言者撮影の8ミリ映像を上映したところ、参加者から「8ミリ映画なつかしくレトロで新鮮」との声も頂いた。

後半にパリ万博の研究者・文学部准教授寺本敬子が長い万国博の歴史、パリ万博の概要等に加え、パリ万博等との比較で、大阪万博の意義、特異な位置づけを語り、近年の再開催の動向等につきコメントした。

語学コース

春期:平成29年5月20日～7月22日(毎週土曜日)〈全10回〉

秋期:平成29年10月7日～12月16日(11月4日は除く)(各土曜日)〈全10回〉

英会話

〈講座責任講師〉

本学文学部人文学科准教授 山崎 妙

(春期)

平成29年度春期公開講座語学コース(英会話)として、5月20日から7月22日までの毎週土曜午後、「英会話中級」2講座が新座キャンパスで開講された。「英会話中級A」は、本学兼任講師のジョン・オリファント講師が“British Cinemas and Society”という題目で、「英会話中級B」は、本学文学部コミュニケーション文化学科助教のコリン・マクラウド講師が“An Introduction to Scottish Culture and Traditions”という題目で担当した。「英会話中級A」は受講者7名、修了者2名、「英会話中級B」は受講者20名、修了者15名であった。以下では、27名の受講者のうち18名から回答を得たアンケートの結果をもとに、講座について振り返りたい。

まず、両講座とも、開講時期、時間帯、回数、時間数などについては適切であるとの回答が大半であった。次に内容についてであるが、以前の報告書の記載を参考に、両講師には、内容についての理解を深めることに加え、受講者が実際に英語を使う時間を十分に確保してもらおうよう依頼してあった。「英会話中級A」は英国の映画、「英会話中級B」はスコットランドの文化というテーマに沿って、豊富な配布資料、スライドなどを駆使して熱心に授業が行われたようだ。18名中17名が「内容について理解が深まった」と回答しており、配布資料やスライドの量が適切だったと回答したものは16名だった。実際の英語の使用に関しては、「英会話中級A」の受講者から、回を追うごとにディスカッションの時間が増えた点が良い点があったというコメントがあった。最

後に、講座の難易度について述べたい。両講座において、「難しかった」という回答をした受講者が2-3名おり、「初級があればよかった」というコメントもあった。「英会話中級B」の担当講師は、「ディスカッションを行うのであれば、もう少し講義部分の内容の難易度を下げる必要があった」という印象を持ったようだ。初級クラスを設けるかどうか、講座の難易度をどの程度に設定するか、などについて今後検討の余地がある。

(秋期)

平成29年度秋期公開講座語学コース(英会話)として、10月7日から12月16日までの毎週土曜午後、「英会話中級」2講座が新座キャンパスで開講された。「英会話中級A」は、本学兼任講師のジョン・オリファント講師が“How the 1960s changed Europe and America”と題して、「英会話中級B」は、本学兼任講師のパトリック・レイツ講師が“Ten Things to Know About U.S. Culture”と題して授業を行った。「英会話中級A」は受講者5名、修了者2名、「英会話中級B」は受講者19名、修了者11名であった。以下では、24名の受講者のうち15名から回答を得たアンケートの結果をもとに、講座について振り返りたい。

開講時期、時間帯、講義時間などについては適切であるとの回答が大半であった。「英会話中級A」では1960年代の欧米の動向、文学、音楽などを、「英会話中級B」ではアメリカの文化を題材とした講義とそれについての議論が行われた。15名全員が「内容について興味や関心が深まった」と回答しており、欧米の歴史や文学など内容を重視した英語授業(content-based instruction)において会話の力を養うというこの講座の狙いが正しく理解され、評価されていると思われる。13名が

「配布資料やスライドの量が適切だった」と回答していることから、講師は受講者の理解度などを正しく把握し、丁寧な授業運営をしていたと考えられる。難易度についての回答は、「英会話中級A」では「適切」が2名、「難しい」が1名、「英会話中級B」では「適切」が9名、「易しい」が3名であり、難易度はおおむね適切だったと思われる。自由回答欄に挙げられた問題点は、「バスの不便さ」についてのものであった。13名が「今後、また公開講座を受講したい」と答えていること、そして本講座を今年初めて受講したのは15名中4名であり、何年も繰り返して受講している人が多いことから、受講者の講座への満足や期待がうかがえる。引き続き、「内容を重視した英会話講座」という形で開講していく方針でいいのではないかという印象を受けた。

中国語会話

〈講座責任講師〉

本学文学部人文学科准教授 安本 真弓

(春期)

平成29年度春期の公開講座『中国語会話』は、「風趣を楽しむ(春夏編)」という題目で本学兼任講師の李振溪講師が担当した。授業の冒頭に旬のニュースや、1週間の気になる話題を中国語で表現して話し合う際の間違ひなどを指摘するほか、受講者から寄せられた「中国における季節の表現や古典漢文など」を学習したいとのリクエストに応え、春季を中心に四季折々の漢詩や、散文、ことわざ、熟語などを取り入れた。成果として、例えば、日本ではまだ認知度が低い中国前漢の元帝の時代を生き抜いた「王昭君」という故事について、漢文版と現代中国語版を対照しながら読み、アニメ動画を鑑賞することで、学習者は古代中国の匈奴民族に関する知識を深めることができたなどが挙げられる。

クラスの学習者構成は、10年以上の常連学習者もいれば、思いがけず全くの初心者も何名かはいた。そのために、常連学習者にとっては少々退屈とを感じるが、初心者用に急きょ中国語入門に必要な知識を授業の折に入れることにした。幸い、常連学習者はみな熱心で優しく、授業後に初心者を誘い学食でのティタイムを進んで作りフォローしていたので、クラスはいつも和やかな雰囲気の中で行うことができた。また、学習者全員に言えることだが、授業で精読していた春と夏に関する現代中国語の散文は、自宅で真剣に予習や復習を取り組まれた結果、少しずつ文章力を身に付け収穫は大きかったようである。

講座の締めくくりに、受講者がさまざまな感想を中国語で書いた。それを日本語に訳したものを一部概略して紹介すると、「朱自清の作品『春』は、背景知識が求められて読みづらかったが、繰り返して読むことによりかなりの部分が理解でき、大いに自信がついた」、「人の価値は簡単に言えば一所懸命に人生を過ごすことである。この観点から「王昭君」の人生は非常に価値あるものであり、自分の運命を受け入れて死後も人々に敬愛され、真の美人と言うべきである」、「李先生の中国語クラスに参加して7、8回になるが、最初の頃に比べて、中国語で書いた文章への理解は容易になり、四年間の学習が無駄ではなかったと、とても嬉しく思う」などがある。

これらの感想から本学の中国語公開講座が社会貢献の一環として地域住民の生涯学習推進という重要な役割を担っていると垣間見ることができる。

(秋期)

平成29年度秋期の公開講座『中国語会話』は、春期に続き「風趣を楽しむ(秋冬編)」という題目で本学兼任講師の李振溪講師が担当した。授業の冒頭には春期授業のように最近気になる話題を話し合う時間を設けている。

それを中国語で如何に表現するのが良いか、新しい語句や、関連する中国事情を織り交ぜて指導するようにしていた。また、授業のメインとなる内容は、秋を詠む漢詩や熟語と、感情を伝える決まり文句（いたわりの言葉、激励の言葉）の学習、及び現代に伝わる中国古典文学、(1)中国東漢末期から西晋初期まで約 100 年間の歴史を描写した羅貫中著の『三国演義』、(2)中国北宋末期に宋江をはじめとする 108 名の勇士が梁山で旗揚げする物語である施耐庵著の『水滸伝』、(3)唐僧・孫悟空・猪八戒・沙僧の師弟 4 人がお経を求めて西天に行く故事である呉承恩著の『西遊記』、(4)中国の封建社会にまつわる貴族が繁栄から衰退していく様子を描く曹雪芹著の『紅樓夢』、という 4 大名作の紹介である。公開講座のアンケート調査では、「講座内容についての興味や関心が深まった」、「今後また受講したい」と受講生全員が答えていたことから、講座内容が充実で面白いと評価されたようである。

講座受講生には常連の学習者が何人かおり、彼らは講座に出て中国語を熱心に学習する以外に、中国の映画や雑誌を見たり、中国の音楽を聴いたり、中国に旅行に出かけたりして別の角度から中国語の学習に励んでいる。同時に、中国の歴史、文化などについても興味を示しているため、今回の講座で学習する内容に中国の 4 大名作を紹介することにしたのである。

講座の最後で受講者が書いた感想文の一部抜粋：「私は水滸ファンであり、取り上げていただきとても嬉しい」、「李先生や皆様と一緒に勉強できて嬉しい。ことわざに「継続は力なり」がある。中国語学習を続けていく。皆様とまた会えることを楽しみにしている」、「私にとって今年の教材のなかで興味深い話題は『三国演義』である。吉川英治が書いた『三国志』が大好きで、特に赤壁の戦いが印象深かった」、「今回の中国語講座に参加して 2 か月経ち、中国語能力が若干高くなったか

はわからないが、ただ先生の話しを少し聞き取れるようになった」、これらの感想から受講生たちが講座に対する満足度が高いことを伺える。

一方、講座のアンケート調査で「初級者の方と上級者の方が混在するのは、双方にとって良く無いと思われまます」、「(可能であれば)初級講座があれば、参考にしたい」との気になるコメントを春学期に続き寄せられている。本学の中国語公開講座が社会貢献の一環として地域住民の生涯学習を推進していくという自負があるならば、そこの部分に対する何らかの改善策を模索することが望ましい。

朝鮮・韓国語会話

〈講座責任講師〉

本学文学部コミュニケーション文化学科
専任講師 吉田 さち

(春期)

2017 年度春期公開講座は、「朝鮮・韓国語入門（会話初級）」コースが開講された。講座名は「やさしい韓国語会話」である。昨年度は、春期・秋期ともに「中級」コースが開かれていたため、1 年ぶりの「入門」コース開講となった。

昨年度の公開講座に引き続き、本学兼任講師の荻野千尋先生にご担当頂いた。

講座の目的は、朝鮮・韓国語によるコミュニケーションに必要な土台を築くことである。ハングル文字を習得し、朝鮮・韓国語の習得に必要な発音やイントネーションに慣れたうえで、実生活でよく使われる単語や表現、それらを使ったスキットに触れる内容だ。今回は、会話初級クラスだったため、話す・聞く・読む・書くという 4 つの言語技能の中でも、特に話す能力を高めることに焦点を当てた教材を用いて授業を行って頂いた。

講座の受講生は、13 名だったが、特筆すべきは 2 名が（朝鮮・韓国語講座では初の）高

校生だったことである。2名の高校生が参加していたことで、社会人受講生の方からは、「高校生と一緒に学ぶということが新鮮に感じられた。」との声を頂いたそうだ。異世代が混在した環境でともに学習することによって互いに刺激を受けるところも大きかったものと思われる。

授業においては、韓国語で自分の名刺を作り、簡単な会話をしながらクラスメイトと交換する活動を特に楽しんで頂けた様子だったとのことだ。また、ペアで会話の発表を行った際も「覚えるのが大変だったが学生時代に戻ったようで楽しかった。」との感想を聞いたそうである。受講生の方々が実践的な会話の練習に楽しく取り組んでいた様子が見える。

講座修了後アンケートの内容を見ると、「この講座を受講して、内容について興味や関心が深まりましたか。」という質問に対し、全ての回答者が「深まった。」と回答している。受講生からは「学習意欲を刺激されました。今まで独学でどうにもならなかった面に切り込めて、今後のさらなる学びのきっかけになりました。予習は大変でしたが、それもよかったです。」との声も寄せられていた。受講生の方々の授業内容に対する満足度は総じて高かったと言える。

一方、時間帯については、約4割が「適切でなかった。」と回答し、午前中を望む声の一部の受講生から寄せられていた。時間については検討課題として残った。

(秋期)

2017年度秋期公開講座は、「朝鮮・韓国語中級」コースが開講された。講座名は「話してみよう韓国語」である。ご担当頂いたのは、春期公開講座に引き続き、本学兼任講師の荻野千尋先生である。

今回の講座は、「ハングル文字や発音を習得し、より会話力をつけたい方」を対象とし、

「1日の日課」、「週末」、「家族」といった身近なテーマに沿って、主に数字や量、及び過去形の作り方を学んでいくといった内容である。とりわけ独学ではなかなか身につけづらい正しい「発音」と「イントネーション」、「リズムや強弱」に慣れることに重きが置かれたものとなっている。

授業内の活動については、パートナーを変えながらのロールプレイが多く取り入れられた。荻野先生によると、会話を覚えて皆の前で発表した後には、「ためになる。むずかしいけどやった方がいい」という意見が多く聞かれたという。受講生にとって、難易度は高いが達成感を得られた取り組みだったと思われる。

受講生の中は、春初級受講者の連続受講が3名ほど、昨年度中級受講者の再度受講が3名ほどおり、連続受講生の方々を中心に、最後に打ち上げをしたり、今後の韓国旅行の計画を立てたりするなど、相互交流が深まった様子が見られたそうである。

講座修了後アンケートでは、「荻野先生の授業は楽しいし、自分の学びたいことが学べる(以下略)」、「続きが教わりたい」、「次回も是非、朝鮮・韓国語講座中級を開講していただきたいと思います」、「中級の1・2など、クラスを増やしてほしいです！次の4月からのコースが始まるまでもクラスがあったらうれしいです。」等の意見が寄せられた。これらの意見からは、満足度の高さや中級クラス開講への期待の高さが伺えた。

時間帯については、春期の受講生の間では午前中を望む声の一部見られたものの、今回の受講生の間では、春期と同じ土曜日の午後という時間帯について9割近くが「適切」と回答していた。時間帯への希望は、受講生の顔ぶれにより変わることを改めて確認できた。

昨年度に続き、学習者同士の相互交流を深めるクラスを作って下さった荻野先生に厚く感謝申し上げたい。

くずし字読解コース

春期:平成29年 5月20日～ 7月22日(毎週土曜日)〈全10回〉

秋期:平成29年10月 7日～12月16日(11月4日は除く)(各土曜日)〈全10回〉

〈春期講座責任講師〉

本学文学部人文学科教授 泉 雅博

くずし字読解コース・入門(歴史系)

「はじめて読む古文書—江戸時代を読み解く準備—」というテーマを掲げて開講してきた春期くずし字講座入門(歴史系)も、今回で節目の5年目を迎えることができた。

今年度の受講者は17人。講座終盤のアンケートによると、初めての受講者は全体の約40%、2年目は約8%、3年目は約25%、4年目は約17%、5年目は約8%という構成であった。受講回数のはらつきは開講前から予想されたことであり、概して古文書判読力のレベルは学習年数の差に相関する。「入門」と銘打った本講座だが、リピーターや中級者以上の方にも満足していただける工夫が必要であった。

本講座における工夫の第一は教材選びである。今回もこれまで同様、典型的な御家流の古文書5点をテキストとした。くずし字の読みやすさを優先するためである。また埼玉県在住の受講者が多いことを考慮して、4点は埼玉県、1点は隣接する群馬県の古文書を選んだ。県内文書のうちの2点は新発見・未公表のものである。

全10回の講座では、入門者・初心者向けに、江戸時代独特の慣用表現を詳しく説明した。また中上級者にも楽しんでいただけるように、“古文書で読み解く江戸時代”とでもいうべき、歴史講座風の内容解説を心がけた。

その結果、最後のアンケートでは、すべての方に今後も「本学の公開講座を受講したい」と答えていただいた。以下のようなお言葉をいただけたことも講師冥利に尽きる。受講してくださった皆様には、心からの感謝を申し上げます。

・教材の選択も工夫されていて、コツも含めて教えてくださり、本当にくずし字の読みが出来るように指導してくださり、感謝しています。(中略) 数回欠席してしまいましたが、ちゃんと出席すれば、辞書を使って読めるようになりそうで、すごいです。

・江戸時代の生きていた人々の肉筆をたどる……本当に難しく、最初一人で向き合うだけでは全く読み解く事ができませんでした。けれども、先生の丁寧な解説で、少しずつ常套な箇所を覚えて、自力で少しでも読めた時は、本当にハッとするほど目の前が明るくなりました。次回までに、何回も繰り返し復習しておこうと思います。有難うございました。

(関口博巨)

くずし字読解コース・入門(文学系)

「くずし字読解コース(文学系)」は、「はじめてのくずし字—江戸のコミックと膝栗毛—」と題し、例年のとおり、明治期の教科書によって仮名の基礎を学んだ後、十返舎一九の黄表紙『閑思獣境界』と滑稽本『続膝栗毛五編』を扱い、変体仮名と基本的な漢字の崩しが読めるようになることを目的とした。

受講者は10名で、新規の方と昨年度以前からの継続の方が半々ぐらいであった。書道を学んでいる方や職種上くずし字解読能力を必要とされる方等もおり、皆さん熱心でまた年齢層も多様であった。

基礎の丁寧な説明からはいり、豊富な配布物による本文の解説、さらには江戸時代の版本や浮世絵・摺物といった原典資料を実見する時間も設けた。作品解読の楽しさと江戸文化の豊かな世界が伝わる内容で、毎年好評をもって迎えられている。

(二又 淳)

〈秋期担当責任講師〉
本学文学部人文学科教授 岩田 秀行

くずし字の読解コースも今年で5年目となった。従来、春学期を歴史系、秋学期を文学系として、それぞれ入門・一般の2クラスを置いてきたが、今年は歴史系、文学系ともに、春学期に入門クラス、秋学期に一般クラスを置くこととした。従来配置の場合、春学期に入門クラスを取り、次の一般クラスに進むには1年待つ必要があった。今回はそれを解消し、春に入門、秋に一般と半期で進級できるように考えての処置である。実際に、秋学期受講者30名の内、7名が春初級の履修者であった。

歴史系のクラスは「古文書で探る戊辰内乱期の江戸・東京」(奈倉哲三名誉教授担当)、文学系は「女筆を読む 一仮名と女性手紙文一」(岩田秀行担当)と題して、それぞれくずし字解読能力のアップを目標とした一般向けの講座とした。歴史系は、ちょうど明治150年を迎える前年でもあり、また内容的にきわめて興味深い戊辰戦争下のトピックを扱った講座であったため、定員をオーバーした21名の熱気あふれるクラスとなった。

文学系は、江戸期の女性手紙文を扱ったが、かな文字の習熟をも視野に入れてのドリルを中心とした方式で進めた。受講者は9名であった。仮名文は、和歌や古典の文学的な文脈の理解が土台となるものであるが、日頃古典文学に触れることが少ないためか、皆さん悲鳴をあげつつも、流れるような美しいかな文字を楽しみ、またテキストに使われた実際の江戸時代の書籍も鑑賞しながらの、和気藹々としたクラスとなった。

受講者中には、職業的に古文書解読が必要な方、文京アカデミアの履修者の方、跡見の卒業生の方等をも含み、両クラスとも非常に熱心で活気あふれる雰囲気となった。

なお、歴史系担当の奈倉名誉教授から「公

開講座を終えて」と題した、以下の文章をいただいた。

定員を1名超過した21名、そのほぼ全員が、ハードな「訓練」であることを覚悟のうえで、最後まで熱心に受講されていた。多くはリタイア組だが、私自身も退職した身であるため、学内に「居場所」が基本的に無い。だが、開講時間ギリギリに着いたのでは細かな準備ができない。そこで30分前には教室に入り教卓前に座る。もう何人かの方が席についていて、その日に読む古文書の「予習」に余念がない。10分前ともなると、ほぼ全員が揃い、皆黙々と「予習」に励む。その光景たるや、定期試験日の高校生が、「はじめ！」の前まで黙々と試験勉強している姿だ。そんなであれば、皆「苦しかった、もう嫌だ」となるかと思えば、さにあらず。「楽しかった」「もっと挑戦したい」と喜んでくれている。そう、「古文書解読講座」とは「読めない文字」を「読めた」にするための講座なのだ。実践的教授法のコツが、退職数年にして、ようやく身につけてきた。

まことに、「くずし字読解講座」とは、くずし字を読む力を確実に前進させるための講座なのであり、そのためには興味を持って解読したくなる文書が使われてこそ、成功を収めるものである。まさにそうした意味で、本年度の歴史系講座は大成功であったと言えよう。

かくて、くずし字読解講座も年を追うごとに充実し、受講者もあふれる人気講座とまで至ったが、今年をもって一旦幕を閉じることとなった。講座責任者の岩田が定年を迎え、後任担当者を見つけることが出来なくなったからである。奈倉教授と相談をしつつ育ててきた本講座であったが、受講者の皆さんがくずし字を読めるようになりたいという非常に強い受講動機をお持ちであるため、つねにクラスは活気と熱気にあふれ、質問が飛び交い、

また予習復習も熱心に行われ、文字が読めたときには感嘆の声が発せられるというような、まさに理想的な雰囲気を持つ講座として成功を収めることができた。本来の学びの場とはかくあるべきものであろう。大学教員生活の最後の5年間にこのような理想のクラスを担当出来たことを幸せに思う。

受講者の皆さんが、この学びを基に、さらに自らステップアップをして、豊かに広がる古文書・古典籍の世界に分け入ってくだされば、これ以上に喜ばしいことはない。熱心な受講者の皆さん、またご多忙の中講師を引き受けて下さった先生方、そして講座を支えて下さった事務の皆さんに心よりの感謝を申し述べて、本講座の結びとしたい。

パソコンコース

春期(新座キャンパス):平成29年4月22日、5月6日、13日 (各土曜日)〈全3回〉

秋期(文京キャンパス):平成29年11月11日～11月25日 (毎週土曜日)〈全3回〉

〈春期〉

音声付き絵日記ページを作ろう:

スマートフォン対応

本学文学部人文学科教授 福田 博同

ホームページ作成を簡解しますと次の手順です。①音楽や画像ファイル等を作り、②リンクを貼ったHTML文を書いて保存し、③インターネットを通じてプロバイダ等へアップロードすると、④ブラウザで読めます。一方、⑤ブログ等はサービス会社のお膳立てで画像ファイルや文章をアップロードします。これらの仕組みを理解し、視覚障害や聴覚障害のかたも利用できるホームページを作成するには様々な過程があります。一昨年から春期の「ホームページ作成入門コース」は3日間で合計9時間行いました。それ故、これらの過程を早口でなく、ゆっくり着実に全コースを行えるようになりました。具体的には次の手順です。

- ①パソコン起動、CD-RWの使い方、保存と終了
 - ②ショートカットキーと単語登録
 - ③アクセシビリティ対応Webサイトチェッカー
 - ④メタデータや内容の編集
 - ⑤ブログの作り方
 - ⑥写真の利用方法
 - ⑦Microsoft PowerPointによる半透明画像作成とファイル作成
 - ⑧マイク入力方法とファイルの保存
 - ⑨BGM作曲方法とファイルの保存
 - ⑩Microsoft Excel作成の表データのHTML変換方法
 - ⑪各ファイルのリンクによるHTML文書完成
 - ⑫スタイルシートによるスタイルの変更
- 以上の非常に濃い内容のコースですが、YouTube 動画教材、HTML 教材、PDF 教材や印

刷教材も初心者でも分かるように作成して準備しました。説明は分かりやすくゆっくり行い、4人のティーチングアシスタントさんがすぐ補助説明できる体制で実習を行いました。連休を挟んでの3日間の連続出席で、受講者数が若干少なかったのですが、アンケートを拝見すると、時間が増えたことで、ほとんどの方が理解できたようです。

以下、主なアンケート回答です。(複数回答□)

- ①受講理由□：テーマに興味67%，無料28%
- ②受講して内容や興味が深化したか：100%
- ③開講回数：適切62%，少ない39%
- ④講義時間：適切77%，短い15%，長い8%
- ⑤難易度：適切75%，易しい17%，難しい8%
- ⑥教材スライド等の量：適切100%
- ⑦今後も公開講座を受講したいか：はい100%

その他のご意見

○わかりやすい

○先生及びスタッフの方々、ていねいに指導して頂き、有難うございました。

○今回、新しく覚えたことが多く、ためになりました。有難うございました。

○一日あたりの時間を短くして、回数を増やしていただきたい。

有能なティーチングアシスタントさんのおかげによる円滑な実習が今年もできました。また、今後も分かりやすい講義を目指して努力していきたいと思っております。最後に受講くださった皆様に深く感謝申し上げます。

〈秋期〉

Excel入門

本学兼任講師 柴田 徹

秋期公開講座パソコンコースは、平成29年11月11、18、25日の3回(各土曜日、1回180

分)にわたって、文京キャンパスにおいて開催されました。公開講座の担当は、一昨年の同コース(平成27年9月19、26日の2回(各土曜日、同)、新座キャンパス)に続いて2度目です。本講座においては、前回同様、Excelの初心者向けに、簡単な家計簿等が作成できる程度まで到達することをめざして、基本的な操作の説明と演習を行いました。

テキストや説明用のワークシート、スライド、演習課題等は、前回のものに新規の内容を追加・再構成して、開催回数の増加に対応すると同時に、受講者の理解の向上を図りました。

テキストの内容構成は、概ね以下の通りです。※の章には、全員必須ではない発展的な内容も含まれます。

- ・第1回テキスト (pp. 1-29)
 1. 本学のパソコン(コンピュータ)のタイプ
 2. パソコンの起動・ログオン・終了(シャットダウン)
 3. マウスの基本操作(標準設定[右利き用]の場合)
 4. ウィンドウの基本操作(※)
 5. ファイルとフォルダの基本操作
 6. Excel 2010を操作する前に
 7. データの入力、編集、表示方法(※)
 8. セルの書式設定、ワークシートの操作、ウィンドウ枠の固定と解除等(※)
- ・第2回テキスト (pp. 30-55)
 9. ワークシートの設定、印刷の設定等(※)
 10. 演算と参照、簡単な関数(※)
 11. 条件判断(論理関数の利用)、データの並べ替え
 12. データの入力規則、条件付き書式、データの検索・置換(※)

13. 条件付き関数、縦方向への検索(※)
14. 文字列の演算(※)

- ・第3回テキスト (pp. 56-66)
 15. 3-D集計(串刺し集計)(※)
 16. グラフの作成・編集

1～5章は、前回同様、パソコン初心者が相当割合を占める場合に備えて、念のために準備した部分です。パソコンの操作が初めてという受講者はいなかったため、1日目は6章「Excel 2010を操作する前に」(2016に読みかえ)から始めました。

講座の進め方は、内容のまとまりごとに一斉に説明したあとで、演習課題に個別に取り組ませる形を基本としました。一連の演習課題には、前回同様、全員必須のものと、取り組み任意の発展的な内容のものとは含まれません。例外的に、最も基本的な操作を扱う7章だけは、長時間かつ相当量の説明が続いてしまった前回の反省をふまえて、内容を一まとめにした実習形式のワークシートを、指示にしたがって受講者が一斉に操作する形で進めました。1日目は予定のすべてを終えることができなかつたため、残りは次回に持ち越しとしました。

2日目は、一斉説明の後の個別演習という進め方を中核に据えながらも、1日目の状況をふまえて、すでに相当程度の実力があり、時間を持て余してしまう受講者に対しては、自分のペースで積極的に先々の課題に取り組めるよう、当日のすべての演習課題を、冒頭で配布することにしました。逆に、課題が思うようにこなせず、全体から遅れをとっている受講者に対しては、説明は聞いた上で、引き続き自分のペースで焦らずに、未完了の課題に取り組んでよいと指示しました。

最終日(3日目)は、遅れている受講者に配慮して、新規の内容を少なめに設定しました。ただし、他の受講者が手持ち無沙汰にな

らないよう、演習課題の質と量で調整を図りました。最終日の課題には、3日間の総まとめにあたるものもいくつか含まれます。今後の学習の参考にして頂くために、最後には、簡単な家計簿の作成例も配布しました。

3日間を通して、前回同様、一斉説明においては、声の聞きやすさ、話す速度、画面の見やすさ、内容の理解のしやすさ等に、特に気を配りました。また、机間・個別指導においては、1人1人の知識・理解の程度、技能的な習熟度、視力・聴力（高齢者の場合）等に応じた、理解しやすい、懇切丁寧な対応を心がけました。

今回（文京）は、前回（新座）とは打って変わって、若い世代の女性受講者が多かったように思います。ご夫婦での受講も目に付きました。若い女性受講者の中には、マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト（MOS）のスペシャリストレベル（一般）を優に超える程度の実力をすでにお持ちの方が、何名かおられるようでした。初心者向けの内容を基本とした講座でしたので、そうした方々の期待には、お応えできなかったかもしれません。他方で、高齢の受講者の中には、オートフィルや、四則演算、SUM関数等といった、基本的な操作・取り扱いの習得段階で足踏みをされ、課題がなかなかこなせないでいる方もおられました。そうした方々にとっては、本講座の内容は、理解しにくいものだったかもしれません。それでもアンケート結果によれば、難易度が適切だったと思われた方が7割弱（前回5割強）、また受講したいと思われた方が9割強（前回ほぼ全員）に達したようですので、担当講師としては、どうかこうにか、気落ちせずに済んでいます。

受講者のみなさんの満足感、達成感をさらに高める1つの手立てとして、Excelの操作経験に応じたクラス分け（サブコース）は、検討できないものでしょうか。例えば、Excelの操作経験が全くない・ほとんどない方向け

の「Excel入門クラス」（初級レベル）、仕事等で日常的にExcelを操作している方向けの「Excelスキルアップクラス」（実践（初～中級）レベル）のように、最低でも2つの経験別クラスを設けることによって、個々の受講者の要求に即した、より効果的な指導・学習が期待できるようにも思います。ご一考頂ければと思います。

余談ながら、最終日の講座終了後、「学生の頃、先生の（Excelの）クラスでした」と歩み寄ってきた若い女性がいました。電車の広告を見て、お母様と一緒に受講することにしたのだそうです。アシスタントの1人に「リピーターですね」と冷やかされながら、卒業後も意欲的に学び続ける教え子の姿を目の当たりにして、とても誇らしく、嬉しく思いました。私の授業は、厳しい、難しい、細かい、辛いといった否定的な評価が多いようですので、そうした授業を受けた教え子と公開講座で再会しようなどとは、思ってもみませんでした。ちなみに、アンケートで、受講理由を「講師に興味があった」とした方が、1名だけおられました。それが彼女だったのかどうか、今となっては突き止める術がありません。気になるところです。

今回の講座は、知識・経験ともに豊富な、総勢5名のアシスタントにサポートして頂きました。アシスタントのみなさんからの情報提供や、きめ細かなサポートがなければ、講座は進めることができませんでした。担当の教務課のみなさん、情報サービス課のみなさんには、今回も色々ご配慮、お骨折りを頂きました。責任講師の本学文学部現代文化表現学科准教授・伊藤穰先生には、前回に引き続き、色々指導・助言を頂きました。皆様に心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。機会があれば、また是非お声がけ頂きたいと思います。

最後に、受講者のみなさん、お付き合い頂きまして本当にありがとうございました。

受講生からのレポート

幸せになるコミュニケーション術

秋期教養コース（新座）受講生 瀧上 浩司さん

一般にコミュニケーションは人とうまく話し、人の話を正確に聞くことと取り違えるので、リーフレットを見て第2・3回は直観的でないと感じました。一体着物・西洋絵画を単に色が綺麗ではなくどういう視点から捉えるのかという興味を持っての受講となりました。

第1回は聞き上手でハッピーライフ。聞き上手の極意は自己主張をしないことだそうです。実は「本当は、その映画あまり好きではないんだ。」に似た例文も混ぜて、あなたなら相手に嫌な感じを与えずにどう言いますかと投げ掛ける向きもありました。

第4回は多言語社会日本におけるコミュニケーション。在日コリアン一世は日本語・韓国語を理解し、三世になると日本語しか理解できない状況はよく知られていますが、朝鮮学校と韓国学校におけるコードスイッチングにも触れ、本人が必要と感じないだけでなく授業を朝鮮語でするのか日本語でするのかという帰属意識によって比重が異なるとのことでした。

第5回は日常にあふれる比喩表現たち。モンブランケーキ(細い麺状のクリームをあしらい、雪に見立てた砂糖がかけられている)・目玉焼き(黄身と白身が平円状となり、見た目が目玉のようになる)等の隠喩や、やかん(の湯)が沸く・一風呂(の湯を)浴びる等の換喩が扱われましたが、あんパン・カレーパンのようにメロンパンにメロン果汁を入れるテレビ番組を思い出して日本語の揺れを感じました。

第2回は着物コミュニケーション文化。文字や絵画に隠された意味を当てる判じ物が江戸時代に好まれたとのことでした。

第3回は視線と身ぶりのコミュニケーション。イランやブラジルで意味が違う日本の指ジェスチャーは気を付けたいとのことでした。

こうしてみると前3者が言語コミュニケーション・後2者が非言語コミュニケーションであり、一般的な美意識がピカソが何だか判らなくてもダビンチならわかるものであるように、全5回に人が求めていることを引き出す感性を磨くことが大切であるという精神が見られました。

土屋博映教授の授業をお受けして。

秋期教養コース（新座）受講生 伊藤 昌宏さん

先生のお言葉に、「一生に一回知っているかいないかの言葉を知っているかどうかで使っている意味が違う」とありました。とても感心しました。先生の講義は展開が早すぎて、結局、成果といえばこの言葉くらいです。これはとてもいい表現だと思いました。どういう言葉の意味だろうと考えてみますと、ますます知らなくなります。これはひとつの投げかけであり、やはりメモをしておいてよかったです。何かの折に付け考えてみようと思えます。これは、よく考えてみますと、「一つでいい」ということかなと思いました。一つ、一つ、一つ、とつながって、意味が生まれ、やはり「意味論」も、ある意味で意味があるのかもしれないと考えると、「考えるヒント」にもなり、やはり意味があるんだなと考えるヒントになりました。むかし読んだ小林秀雄の「考えるヒント」は、全くなにも覚えておりません。それをあえて考えずに考えますと、「考えるとは何か」という言葉一意味に気付くことになり、「考える」とは何かに思い至りますと、「考える葦」のパスカルとは、「人間は考える葦である」という古い言葉に思い至るのですが、やはり、言葉なしに「考える」ことは不可能だという思いに至り、言葉には意味があり、いわば、よく考えることだということに至るのですが、この「よく～～」が、意外と難しく、よく間違

いを起こすので怖いものです。

始めにロゴスありき〜という言葉が聖書にあります。これはこういう見方があって、理性または悟性ということで、人間を中心に、つまり、向こう側への思いやりということで、外へ観点を向けて、人間の思考性を拡大しているところが、人間の人間たる、あるいは、人が人たることのゆえんかもしれません。

聞く力、コミ力とは何かと考えると、やはりそれはコミュニケーションにおける聞く力ということになり、聞くことの大切さを言っていると思うのですが、よく言われるところです。やはり、聞くということは聴くことであり、hearとlistenは違うんだと思ひ至りました。ただ、聞くのと聴くのは五感で聞くのがhearで、listenとは、例えば音楽などを聴くことで、そういう分別が日本語にはあります。そうすると、集中して聴くときに、全身を耳にして聴く、あるいは聴くという時に、よく聞く、聴くことに、「形」はないのかもしれない。つまり、聞く、聴く態度に相違はなく、これはひとえに「人間性」によるもので、それが、未だ僕の年（今度10/30で満56才）では若造で、ゲーテは80代にして、17~18歳の少女に恋をしたというぐらい若い心の持ち主であったそうです。「ゲーテ格言集」高橋健二編（新潮文庫）が座右の書と今ではなっており、大切な心の書の一つです。心の中に「人間は見ることをやめないためにのみ、夢見るのだと、私は思う。いつか内部の光が、我々の中から輝き出て、それでも他の光がいらなくなるようなことがあるかもしれない。（「親和力」第二部 第三章から）とあり、これはたびたび考えさせられる言葉で、結局よくわかりません。ただ美しすぎて、よくこういう表現が言えたものだと、ただ感心するばかりです。ゲーテにはたびたび考えさせられます。

そうしますと、やはり、見ることの必要性

が次に出てきますが、これは、聞く（あるいは聴く）のと、やはり、相手を前にして話すときに、聞く、あるいは聴く時に、相手を見ることが日本人には下手で、（アイコンタクト）、つまり、目は口ほどに物を言うという以心伝心ということがあり、日本では言わなくても相手に通ずるところがあり（前提）、やはり、どう考えても、言葉で言わないと（表現しないと）相手には伝わりません。つまり、相手の目（眼）を見て話をするのがコミュニケーションのコツだとすれば話は早く、要は要点をかいつまんで（サマリーワーク）いけばいいのかもしれない！と気付く次第です。そこで、又ゲーテですが、「適切な答えは愛らしいキスのようだ」ということがあります。ゲーテには、そこで、苦勞するのが英語の発音で、kiss[kiss]ということですが、ためて、初めての初キスの相手を思い描いて（思い浮かべて）すると、iとは、イとエのほぼ中間の音で、イのようなエ、エのようなイということで、これがまた、なかなかむずかしく、やはり、美しい女（ひと）（あるいは・・・）美しい男（ひと）を想定して、しまうところが、人間という個性の性（さが）かもしれません。現在注文しているCDが入荷待ちですが、HMVのスタッフに頼んでるのが、ふくい舞の「いくたびの櫻」ということで、これがいつぞやの紅白歌合戦に出て静かなブームへ。頼んでいるCDに、「悲しみよこんにちは」という、フランソワーズ・サガンの小説に因んでタイトルをつけたと思われる曲が入っており、楽しみなのは、その担当の女性のスタッフが掛け値なしのいい女性で、しごく美人です。たぶん、ゲーテも心が若く、ひとめぼれする性（たち）なのでしょう。やはり気の持ちようで、ただ、入荷が遅れていて入らないこともあり、思い出の曲で、ある友人にあげてしまいました。（プレゼント）聴くに値します。やはり、見ることと聞くことは、どこかでつながっているも

のなのですね。僕は絵が趣味なのですが、食べるのも好きで、音楽（BGM、主に女性のボーカル）も好きで、その時が至福の時間で、ただいいと思うと音楽に聴き入ってしまって他のことが手につきません。人間はやはり一つのことを同時にはできないのかもしれない。

先生のご講義は話が面白く、つい聴き入って、メモがとれませんでした。本当に有難うございました。

レトリックに触れて

秋期教養コース（新座）受講生 知見 勝博さん

日常の中になく大学の教室、日常の中になく語り（意味論、語用論など）、そのようなものに刺激されて少しは頭の動きが活発になったのだろうか。貴校公開講座の最終日、中村先生による「比喩」の授業を受けさせていただいた。無意識に使用している比喩を三つに分類し、例を交えてお話しをいただいた。わかりやすく、大変興味深いものだった。明喩にはほとんど触れず。「メトミニー」、「概念メタファー」を中心にお話しされ、このような形も比喩の一種なのだと認識できたことも、大変な収穫だった。メタファーについては少々知っていた。今後ここで教えていただいた事を他人と話しをする際、物を書く際に意識し、さらに言葉を増やすべく努力し、より良いコミュニケーションができるようにしていきたいと思っている。この講座開催に関係した皆様にこの場を借りて深く、感謝致します。ありがとうございました。

くずし字読解入門（歴史系）受講感想文

春期くずし字読解コース入門（歴史系）受講生 田中 美恵さん

くずし字読解入門コースを受講して3年目

です。毎日続けて勉強も出来ませんが3年も受講すると、江戸時代の候文（文体の特徴）・慣用的な言い回し・・・にも少し慣れ、くずし字が何となく見えてきた、ような気がします。今年の資料は自分が古文書に興味を持つきっかけとなった願書・嘆願書でした。興奮しました。恐れ乍ら・で始まるの願書などは似通った文面が多いので覚えやすかったり、知らない言葉が出てきたり、で楽しいです。堅苦しい言い回しの文章の中からは、江戸時代の生活の苦しさや厳しさも垣間見える気がします。自分が子供の頃は家族で時代劇TV、大岡越前や水戸黄門、銭形平次、遠山の金さんなどを観ていたせいでしょうか・・・思い出して勝手にタイムスリップして楽しむことも出来ました。また今年は月岡芳年の浮世絵をたくさん観ました。そこに書かれた文字を読むことが出来、以前より江戸時代ワールドを多角的に楽しめた気がします。今年の気に入った言葉は、仕合（しあわせ・・・良い巡り合せだけの意味では無く、悪い巡り合せの意味もある）でした。もっと勉強していろいろな意味を知り、友達に墨で候文の手紙を書くのが密かな夢です。

講師の関口先生のお話は分かりやすく字も美しく、歴史に興味のある方も文字に興味のある方も受講されると想像以上に面白いと思います。続けると世界広がる！と思います。ありがとうございました。

くずし字読解一般（歴史系）のレポート

秋期くずし字読解コース一般（歴史系）受講生

日暮 俊治さん

旧幕府から「新政府」にかわる政権交代期である、慶応四年（明治元年）の江戸町人の動向について興味をもつものにとって、奈倉哲三先生の今回の講座内容はとても刺激的なものであり、感謝しています。また、ていねいな古文書読解指導にも感心しました。以下、

少しでも学習の成果をと、3つの文書を考察してみたい。

閏四月の輪王寺宮公現親王御上京延引歎願書には、「御領分村々」とともに、「江戸市中町々」よりの歎願書も出されていると添え書きされている。神田の町名主である齋藤月岑日記には、三日に「朝樽（忠道、町年寄）殿呼出し、上の御上京之義付御歎願之義談有之」、四日に「朝より久保（啓藏、平永町名主）氏へ寄合、上のへ御門主様御上京御延行願」、五日に「支配町々上のへ御歎願出る」とある。また、十三日に「今日組合上のへ 宮様御上京御延引之御礼ニ出る」とある。それに比べて、四谷塩町一丁目書役徳兵衛日録には輪王寺宮に関する記載はない。町名主と書役の違いのためか、場所の遠近のせいか、社会の混乱のためであろうか。

十月の第一回東幸について、月岑日記は「今日御臨幸御鳳輦品川方御着有之、今日拜に出る、人夥し、松之介（月岑息子）つれ行んとし今日ハ餘りの群衆故不行、松之介もおがまずニかへる」とあり、拝むという江戸町人の意識が興味深い。徳兵衛日録にも、十三日に「聖上様、今昼八つ時頃西城江御引込ニ相成申候、真殊ニ穩ニ御座候」、十四日に「今日之義者 御着翌日ニ付、諸大名方者不及申、惣出仕と相唱来候処 御東臨相成候ニ付、参内と相唱可申候事」とある。穩やかに終わったと安堵しているようである。

十一月の「築地ホテル館事件」に関する史料は、残念ながら見つからなかった。

テキストエディタを使って作るホームページ

春期パソコンコース（新座）受講生 瀧上 浩司さん

世の中に Word 講座や Excel 講座は沢山あるのですが、ホームページ作成講座は中々見当たりません。思うに私の大学時代の教育学概説 B では各命令に対して行番号を付与し、変

数や関数の定義をはじめ、繰り返し処理、代入、演算、関数の呼び出し等ができる BASIC(教育用プログラミング言語)を習ったものです。それでホームページ作成講座も HTML や CSS (スタイルシート)等、ソースを直接記述するための知識が必要で大変ですが、ホームページ作成ソフトでは特定の機能やデザインを実現したいと思ってもその機能が搭載されていなければ作りようがないことや、ウェブ上のホームページ作成サービスでは無料で利用するためには広告の自動掲載を受け入れる必要があること等を考慮して、受講することにしました。

初日はパソコンの起動と終了・ショートカットキー・フォルダの作り方・日本語入力・CD-RW のコピーと保存で簡単でした。しかし、2日目に秀丸エディタの指定した文字列を別な文字列に置き換える置換機能を使って<head>(ヘッダー情報を書くためのタグ)・<title>(タイトルを指定するためのタグ)・<p>(段落を表すためのタグ)・
(改行をするときに使用するタグ)・<h1><h2><h3>(見出しを表示するタグ)・<a>(リンクを表示するタグ)・(画像を表示するタグ)と駆け足で履修して難しかったです。とはいっても、3日目に図の描き方・図や写真のHTML化や、テキスト音楽「サクラ」で音色(Flute) 音量120 音階5 音符4 ソソ↑ドレ ミ♭レドー↓ ラ♭ラ♭ソファ ソーっのように曲を打ち込む実習があって楽しかったです。

このようにして、普段閲覧しているホームページが記載したい文書その他、画像等のデータといったコンテンツの配置などを定義するHTMLや文書を含めてどの様に装飾するのかを定義するCSSといったマークアップ言語で作られていることを学び、最近 関心が高まっているプログラミング学習の入門編としても有意義な時間であったと考えます。

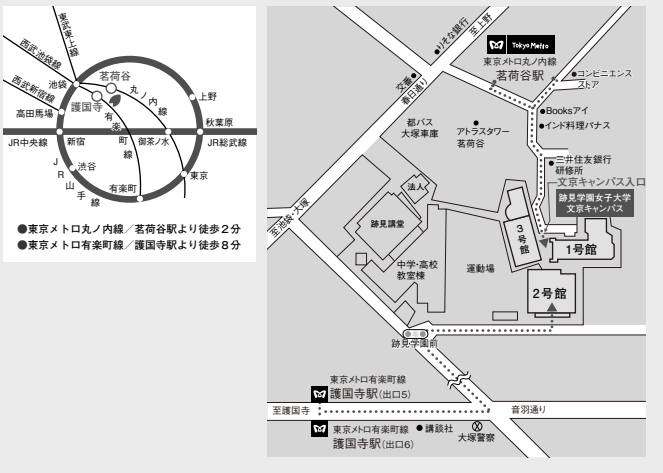
申込方法 往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。

申込方法 ①「現代社会を考える」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか? ⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 4月3日(月)より受付(定員になり次第締切)

※受講申込み受付後、業書にて受講証を郵送いたします。
※お申し込み頂いた方々の個人情報は、跡見学園女子大学文京キャンパス事務局公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。
※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、大学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載します。

文京キャンパスへのご案内



<申込・照会先>



跡見学園女子大学
文京キャンパス事務局 公開講座係
〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL.03-3941-7420
FAX.03-3941-8333
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
http://www.atomi.ac.jp/univ/

平成29年
6/10-24
毎週土曜日
(全3回)

受講料：無料

現代社会を考える

教養コース(文京キャンパス)

平成29年度 春期

跡見学園女子大学の
公開講座のご案内



時間 13:00~14:30 場所 文京キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 100名(定員になり次第締切)

社会問題の解決策をソーシャルビジネスの視点で考える

6/10 第1回 ソーシャルビジネスの可能性
—企業の方で社会問題を解決する—
講師：本学マネジメント学部マネジメント学科教授 笠原 清志

現在、それぞれの国や、そしてそれぞれの社会で多くの社会問題(貧困、疾病、教育、福祉、環境等)が存在し、その解決が求められている。
従来まで、そのような問題は政府や行政の社会政策の対象として扱われてきた。あるいは、個人の側からする慈善事業などの対応であった。今回公開講座では、グラミン銀行のユヌスの提唱するソーシャルビジネスの視点から、企業の方で社会問題を解決する可能性を考えてみたい。

子どもの貧困に対する地域社会の取り組みを学ぶ

6/17 第2回 子どもの貧困と地域社会
講師：本学マネジメント学部マネジメント学科教授 藤 咲子

2013年に「子どもの貧困対策法」が成立しました。なぜ日本で、このような法律が必要とされたのでしょうか。また、子どもの貧困対策として、国や自治体のどのような政策が有効でしょうか。あるいは、経済的な困難を抱える子どものために、地域社会は何かできるのでしょうか。事例や統計資料などを考えます。

経営コンサルティングや経営心理学の視点でコミュニケーションスキルを高める

6/24 第3回 現代社会のコミュニケーション論
—リーダーシップとモチベーションから考える—
講師：本学マネジメント学部マネジメント学科教授 佐藤 敦

現代社会では、企業、業種などのコミュニケーションは、アナログとデジタルが入り混じり、ハラスメントなど閉塞感が漂っています。人は感情の動物とも言われ、知や論で論ずれば角が立つもの。ここでは、経営コンサルティングや経営心理学の視点から、リーダーとメンバーの接点やモチベーションを考えます。

【教養コース】 ●全3回、全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。
【受講者特典】 ●今学期(平成29年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

後援：文京区・公益財団法人文京アカデミー

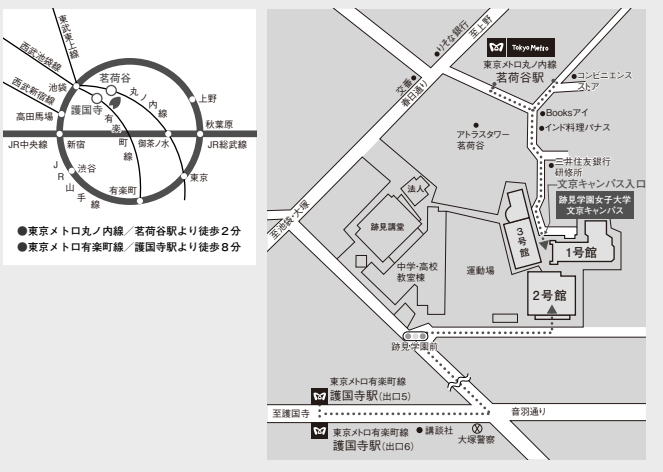
申込方法 往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。

申込方法 ①「昭和40年代前半の日本を旅する」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか? ⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 8月28日(月)より受付(定員になり次第締切)

※教養コースは、受講申込み受付後、業書にて受講証を郵送いたします。
※お申し込み頂いた方々の個人情報は、跡見学園女子大学文京キャンパス事務局公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。
※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、大学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載します。

文京キャンパスへのご案内



<申込・照会先>



跡見学園女子大学
文京キャンパス事務局 公開講座係
〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2
TEL.03-3941-7420
FAX.03-3941-8333
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
http://www.atomi.ac.jp/univ/

平成29年
12/2-12/16
毎週土曜日
(全3回)

受講料：無料

平成29年度 秋期

跡見学園女子大学の
公開講座のご案内



教養コース (文京キャンパス) 昭和40年代前半の日本を旅する
—日本列島の風景から復帰前の沖縄、大阪万博まで—
講師：本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 小川 功

時間 13:00~14:30 場所 文京キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 100名(定員になり次第締切)

※全3回、全てに出席された受講者には公開講座修了証を発行いたします。
※今学期(平成30年3月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

12/2 昭和41年3月の日本列島の旅
ゲスト講師：本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 松坂 健
東京五輪と大阪万博の間の昭和40年代前半、学割の特典がフル活用、国鉄に乗り続けてほぼ一周して観覧した列島各地の昭和と小田原風景をカラー写真で紹介し、変数、発見し続ける当時の雰囲気を感じ。後半に同学科教授松坂健が戦後日本の文化、芸術、風俗等の歩みの中で昭和45年の注目すべき画期的な話を語る。

12/9 昭和42年3月の復帰前の沖縄
ゲスト講師：本学観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授 堀月 亮子
内閣府発行の身分証明書を受け外貨を購入、通関手続きを経て、船内に鳴り響く琉球民謡に洗脳されつつ波路遙かに到着した「あかりかぜ」沖縄の非日常世界を画像で紹介し当時の雰囲気を感じ。後半に同学科教授堀月亮子が沖縄の文化、芸術、風俗等の歩みの中で復帰前の沖縄の特異性と現代の変化した姿を語る。

12/16 昭和45年大阪万博の舞台裏
ゲスト講師：本学文学部人文学科講師 寺本 敬子
沖縄の民芸品等を展示した日本民芸館という超地味な/ペリオン出展企業のヒラ社員兼鉄道愛好者として、並の見学者の立場を越え万博なる非日常と遭遇した経験を紹介し、万博少年ならぬ万博社会人を回顧。後半に文学部講師寺本敬子が長い万国博の歴史の中ハ万博等との比較で大阪万博の特異な位置づけを語る。

11/11-11/25 平成29年 毎週土曜日(全3回) Excel入門
時間 13:00~16:10 場所 文京キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 38名

※全3回、全てに出席された受講者には公開講座修了証を発行いたします。
※今学期(平成30年3月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

講師：本学兼任講師 柴田 徹
Excelは「使えこなせたらカッコイイと思うソフト」の第1位(某社調査、2015年5月)。本講座では、初心者を対象に、操作の基本、表の作り方、数式や関数を使った計算のしかた、グラフの作り方などを、実習を通して懇切に指導します。まずは簡単な家計簿などが作れる程度まで、スキルを身につけましょう。
※[Excel]は米国 Microsoft Corporation の米国及び、その他の国における登録商標です。

後援：文京区・公益財団法人文京アカデミー



平成29年度 春期

跡見学園女子大学の 公開講座のご案内

記憶や感覚の「不思議世界」を体験する
教養コース
「こころ」の仕組み
不思議不思議

平成29年
5/20-6/3
毎週土曜日
〈全3回〉

写真や音楽を使って、見る人に優しいホームページを作成する
パソコンコース
音声付き絵日記ページを作ろう
スマートフォン対応

平成29年
4/22-5/13
(4/29を除く)
各土曜日
〈全3回〉

身近なテーマでしっかり会話力をつけたい方へ
語学コース
英会話／中国語会話
朝鮮・韓国語会話

平成29年
5/20-7/22
毎週土曜日
〈全10回〉

江戸時代の武士や庶民の暮らしを古文書で読み解く
くずし字読解コース

平成29年
5/20-7/22
毎週土曜日
〈全10回〉

後援／埼玉県教育委員会・新座市教育委員会

申込方法 受付期間

教養コース

往復はがき、FAX、WEBのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「こころ」の仕組み 不思議不思議 受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢
⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか? ⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?
受付期間 4月3日(月)より受付(定員になり次第締切)
※教養コースは、受講申込受付後、書害にて受講証を郵送いたします。

パソコンコース

往復はがきにて下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①「パソコンコース」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢
⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか? ⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?
受付期間 4月3日(月)～4月12日(水) 必着
※パソコンコースは、応募者多数の場合は抽選となります。

語学コース(英会話／中国語会話／朝鮮・韓国語会話)・くずし字読解コース

往復はがき、FAX、WEBのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。
①希望講座名(例:英会話中級A) ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢
⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか? ⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?
受付期間 4月3日(月)～5月8日(月) 必着
※語学コース、くずし字読解コースは、応募者多数の場合は抽選となります。
※お申し込み頂いた方々の個人情報、跡見学園女子大学学務部教務課公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。
※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、大学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載します。

新座キャンパスへのご案内

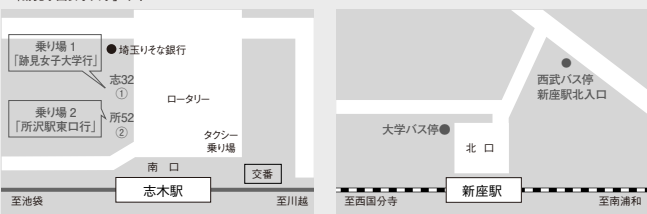
※地球温暖化防止のため、自家用車での来校はご遠慮ください。

●東武東上線(地下鉄有楽町線・副都心線)

「志木駅」下車 南口より西武バス約15分
「跡見学園女子大学」下車

●JR武蔵野線

「新座駅」下車 北口よりバス約7分



●西武線
「所沢駅」下車 東口より西武バス約25分「跡見学園女子大学」下車

<申込・照会先>

跡見学園女子大学
学務部教務課 公開講座係

〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6
TEL. 048-478-3340
FAX. 048-478-4133
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
http:// www.atomi.ac.jp/univ/

跡見学園女子大学の春期公開講座

跡見学園女子大学の春期公開講座は 「こころ」の不思議について学び、語学やパソコンを 習得し、実りある毎日を提供します。

教養コース

平成29年5月20日、27日、6月3日 毎週土曜日〈全3回〉

時間 13:00～14:30 場所 新座キャンパス 対象 15歳以上(中学生を除く)の男女
定員 100名 受講料 無料

「こころ」の仕組み 不思議不思議

5/20

第1回 記憶の不思議不思議

講師: 本学文学部臨床心理学教授 松壽 くらみ

私たちの「記憶」は、大きく3つの部分に分かれているといわれています。
「感覚記憶」[短期記憶] 「長期記憶」です。「感覚記憶」は、非常に短い時間で「消失」するので、自覚するのが難しい現象です。けれども、ある実験の工夫によって、この「感覚記憶」が「発見」されました。
「感覚記憶」の不思議不思議をお話ししようと思います。

5/27

第2回 五感の不思議不思議

講師: 本学文学部臨床心理学教授 宮崎 圭子

ご自分が今見ている世界が本当にその世界そのものなのか、不思議に思ったことはありませんか? わたし達が聴き、嗅ぎ、味わい、触れ、視ているその「心」の五感(聴覚・嗅覚・味覚・触覚・視覚)世界は不思議不思議の世界なのです。まさに驚異の世界といえるでしょう。東の間、一緒にその世界を体験してみませんか?

6/3

第3回 認知の不思議不思議

講師: 本学文学部臨床心理学教授 伊澤 成男

人間の心の働きを知りたいとき、「知」とは何を知ることであり、何かを感じる「情」や何かを行うこととする「意」と区別されています。そして、こうした「認知」という心の働きは「行動」と対比されてきました。今回の講座では、認知療法や行動療法、論理療法などを背景に持つ認知行動療法の理論と方法について、具体的な例を用いて考えていきます。

教養コース受講者特典

- 全3回、全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(平成29年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

パソコンコース

平成29年4月22日、5月6日、13日 各土曜日〈全3回〉

時間 13:00～16:10 場所 新座キャンパス 対象 15歳以上(中学生を除く)の男女
定員 38名 受講料 無料

音声付き絵日記 ページを作ろう スマートフォン対応

講師: 本学文学部人文学科教授 福田 博岡

見本のページをコピーして、必要部分を修正するホームページ作成入門です。絵を描き、写真を撮り、マイク録音や簡単な曲を作り、視覚障がい者や聴覚障がい者が利用できるホームページを作ります。スマートフォン対応です。

パソコンコース受講者特典

- 全3回、全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(平成29年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

語学コース

平成29年5月20日～7月22日 毎週土曜日〈全10回〉

時間 ①13:00～14:30/②14:40～16:10 場所 新座キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 各クラス20名 受講料 15,000円

英会話

【中級A】British Cinema and Society

(時間①) 講師: 本学兼任講師 John Oliphant

This course is intended to provide interesting insights into British society through watching and discussing together extracts from films made in Britain selected for their focus on certain themes. Readings will be given to students the week before we view the film extracts. The worksheets will provide some knowledge of the background to the films that we are going to see, so that they may be understood more fully. Language skills will be improved through listening and discussion and the film scenes will provide a wide range of new vocabulary. Recommendations for deeper research on students' particular interests will be given.

【中級B】An Introduction to Scottish Culture and Traditions

(時間②) 講師: 本学文学部コミュニケーション文化学助教 Colin Macleod

This course aims to provide an overview of Scotland and explain what differentiates it from the other countries of the United Kingdom. The following are some of the topics that we will use to stimulate active and interesting class discussions. Starting with the ancient civilizations that lived in the land we today call Scotland, we will look at defining moments in Scottish history. We will consider the linguistic diversity of this small nation, listen to traditional Scottish music and learn about "ceilidh dancing". Students will also become familiar with the main festivals and celebrations that happen throughout the country. Finally, we will explore Scotland's many heritage sites as well as discover Scotland's greatest export - whisky!

中国語 会話

【初級】風趣を楽しむ中国語

(時間①) 講師: 本学兼任講師 李 振漢

多様な角度から中国語を教えたい。習った中国語や文化知識を活かして、中国人と交流したい。中国語の資格試験に挑戦してみたい。こんな方はぜひ本講座に参加して語学力に磨きかけ、中国理解の輪を広げましょう!

朝鮮・ 韓国語 会話

【初級】やさしい韓国語会話

(時間②) 講師: 本学兼任講師 荻野 千尋

ハングルに慣れるとろみかほは、あいつや自己紹介、日にちや曜日、方向や位置などの基礎的な表現を学んでいきます。発音やイントネーション、リズムに直接触れながら韓国語によるコミュニケーションを始めてみませんか。

語学コース受講者特典

- 開講回数の8割以上出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(平成29年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

※語学コースの各講座の詳細内容は本学ホームページをご覧ください。

くずし字読解 コース

平成29年5月20日～7月22日 毎週土曜日〈全10回〉

時間 ①13:00～14:30/②14:40～16:10 場所 新座キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 各クラス20名 受講料 15,000円

【入門(歴史系)】はじめて読む古文書—江戸時代を読み解く準備—

(時間①) 講師: 本学兼任講師 関口 博巨

江戸時代の古文書は、私たちの身近になくさん残っています。古文書を読めば、武士の支配、庶民の暮らし、文化や信仰などがわかります。あなたのご先祖さまも見つかるかも知れません。この講座では古文書解読の初歩を学びます。さあ、「くずし字」にチャレンジしてみよう!
※平成28年度春期とは違うテキストを使用します。

【入門(文学系)】はじめてのくずし字—江戸のコミックと読ませ毛—

(時間②) 講師: 本学兼任講師 二又 淳

江戸時代の本を原文で読んでみたい! そのような方のための入門コースです。変体仮名の基礎を学んだ後、絵入りのコミック本(黄表紙)と実際にあふれた有名な「読ませ毛」(続編)を実際に読んでみます。初めて仮名を覚えた幼少期に帰ったつもりで、楽しく習得していきます。

くずし字読解コース 受講者特典

- 開講回数の8割以上出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(平成29年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

※くずし字読解コースの各講座の詳細内容は本学ホームページをご覧ください。



平成29年度 秋期

跡見学園女子大学の 公開講座のご案内

申込方法 受付期間

教養コース

往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。

- ①「幸せになるコミュニケーション術」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所
- ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか?
- ⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 8月28日(月)より受付(定員になり次第締切)

語学コース(英会話/中国語会話/朝鮮・韓国語会話)・くずし字読解コース

往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。

- ①希望講座名(例:英会話中級Aコースなど) ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所
- ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか?
- ⑨次回以降の本学公開講座のご案内を希望しますか?

受付期間 語学コース(英会話/中国語会話/朝鮮・韓国語会話) …… 8月28日(月)～9月20日(水)必着
くずし字読解コース

※教養コースは、受講申込み受付後、要項にて受講証を郵送いたします。
 ※語学コース及びくずし字読解コースは、応募者多数の場合は抽選となります。
 ※お申し込み頂いた方々の個人情報、跡見学園女子大学教務部教務課公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。
 ※悪天候等、不測の事態が生じた場合には、大学HPに中止や時間繰り下げ等の情報を掲載します。

新座キャンパスへのご案内

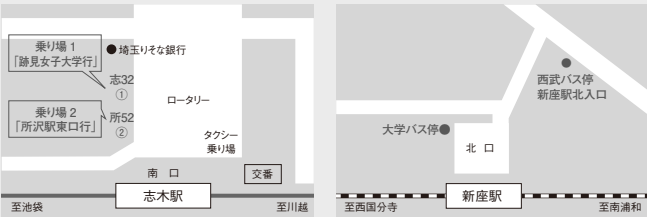
※地球温暖化防止のため、自家用車での来校はご遠慮ください。

●東武東上線(地下鉄有楽町線・副都心線)

「志木駅」下車 南口より西武バス約15分
「跡見女子大」下車

●JR武蔵野線

「新座駅」下車 北口よりバス約7分



●西武線

「所沢駅」下車 東口より西武バス約25分「跡見女子大」下車

<申込・照会先>



跡見学園女子大学 教務部教務課 公開講座係

T 352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6
 TEL. 048-478-3340
 FAX. 048-478-4133
 E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp
 http://www.atomi.ac.jp/univ/

平成29年
10/7・11/11

11月4日は除く

各土曜日
<全5回>

日本文化にみるさまざまな非言語表現を探る

教養コース

幸せになるコミュニケーション術

平成29年
10/7・12/16

11月4日は除く

各土曜日
<全10回>

文化や習慣を知り交流を深める

語学コース

英会話/中国語会話 朝鮮・韓国語会話

平成29年
10/7・12/16

11月4日は除く

各土曜日
<全10回>

江戸の変化を当時の庶民目線で読み解く

くずし字読解コース

共催/新座市教育委員会(教養コースのみ)

後援/埼玉県教育委員会・新座市教育委員会・埼玉まなびプロジェクト協賛事業

跡見学園女子大学の秋期公開講座は教養・語学とくずし字読解コース

教養コース

平成29年10月7日～11月11日(11月4日は除く) 各土曜日<全5回>

時間 13:00～14:30 場所 新座キャンパス 対象 15歳以上(中学生を除く)の男女
定員 100名 受講料 無料

幸せになるコミュニケーション術

10/7

聞き上手でハッピーライフ

講師: 本学文学部コミュニケーション文化学教授 土屋 博映

「コミュニケーション」の極意は、「聞き上手」です。自分はおきき、まず他者(相手)の考え(発言・行動)を受け入れることです。相手を認め、それによりコミュニケーションが広がり、友人が豊富になると同時に、世界が広がり、人生がどんどん楽しくなります。本講座ではそのコツを、実例を挙げ具体的に講義します。

10/14

着物コミュニケーション文化

講師: 本学文学部コミュニケーション文化学助教授 マック・カレン

ものを知ることは、楽しく知識を得ることです。視覚・物質文化コミュニケーションの理解で、もっと世界を広げよう。今回は、江戸時代の判子物から、團十郎格子・弁慶格子などの着物柄・模様、歌川国芳が描いた着物と天保改革禁止令に対しての秘密メッセージなど、奥深く、楽しい着物コミュニケーション文化についてご紹介いたします。

10/21

視線と身ぶりのコミュニケーション

講師: 本学文学部コミュニケーション文化学教授 吉澤 京子

「目は口ほどにものを言う」などのことわざにもあるように視線や身振り身振りは、言葉を使わなくても発信者の気持ちや他者に伝えるコミュニケーション手段です。古今の芸術作品にも、視線や身振りを使ったさまざまなメッセージを見る人に伝えるものが多く見られますが、文化的背景が違えば、その読み解きにはちょっとしたコツが必要です。この講座では、このような視線は身振りの不思議な世界を、一緒に探ってみたいと思います。

10/28

多言語社会日本におけるコミュニケーション

講師: 本学文学部コミュニケーション文化学助教授 吉田 さち

1980年代以降、就労・留学・結婚などのために移住してきた外国籍住民の数が増えています。本講座では、日本社会の多言語化の現状について統計資料などから見ていきます。そのうえで、日本語以外の言語を母語とする人との間で円滑なコミュニケーションを行うために、社会にできることや個人にできることについてともに考えます。

11/11

日常にあふれる比喩表現たち

講師: 本学文学部コミュニケーション文化学助教授 中村 聡

「比喩」という、作家、詩人、作詞家、コピーライターなどが使う言語技巧という語彙が強いかもしれませんが、今回の講義で取り上げるのは、私たち一般人の日常生活に根付いていると考えられる比喩表現です。私たちが無意識のうち比喩を使いこなしていることを実感していただきたいと思います。

教養コース受講者特典

- 開講回数の8割以上に出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(平成30年3月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

語学コース

平成29年10月7日～12月16日(11月4日は除く) 各土曜日<全10回>

時間 ①13:00～14:30/②14:40～16:10 場所 新座キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 各クラス20名 受講料 15,000円

英会話

【中級A】How the 1960s changed Europe and America

【時間①】講師: 本学兼任講師 John Oliphant

This course focuses on the influential individuals and events of this exhilarating decade that brought about changes that affect our way of life today. We shall look at extracts from films and documentaries both from the time and made later and discuss the movements, literature and music of those years to gain a fuller understanding of the impulses that drove change. Language skills will be developed through listening, speaking in pairs and groups and reading.

【中級B】Ten Things to Know About U.S. Culture

【時間②】講師: 本学兼任講師 Patrick Rates

This course is to provide an interesting and educational insight into American culture through topic discussion. You might find yourself asking "What does this phrase mean?" or "Why do Americans do that?" in response to some American habits. Each class we will discuss a different aspect of American culture. We'll discuss some of the most common things to keep in mind about Americans and U.S. Culture, while integrating grammar and vocabulary into the discussions.

中国語会話

【中級】風趣を楽しむ中国語(秋冬編)

【時間③】講師: 本学兼任講師 李 振漢

様々な角度からの視点で中国語を見てみたい。学んだ中国語や文化的知識を活かして、中国人と交流したい。こんな方ぜひ本講座に参加し、学習の秋から語学力に磨きをかけ、中国理解の輪を広げましょう!

朝鮮・韓国語会話

【中級】話してみよう韓国語

【時間④】講師: 本学兼任講師 荻野 千尋

ハングル文字や発音の基礎を習得し、より会話力を身につけたい方を対象とした講座です。ショッピングや食べ物や道案内など身近なテーマを通して現地でも使える対話を学びます。外国人に話したいと言われる発音、イントネーションやリスニングにも気をつけながら、韓国語のブラッシュアップを目指しましょう。

※各講座のシラバスについては、大学HPを参照してください。

語学コース受講者特典

- 開講回数の8割以上に出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(平成30年3月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

くずし字読解コース

平成29年10月7日～12月16日(11月4日は除く) 各土曜日<全10回>

時間 ①13:00～14:30/②14:40～16:10 場所 新座キャンパス
対象 15歳以上(中学生を除く)の男女 定員 各クラス20名 受講料 15,000円

【一般(歴史系)]古文書で探る戊辰内乱期の江戸・東京

【時間①】講師: 本学名誉教授 奈倉 哲三

東洋は戊辰戦争150年、大河ドラマは西郷隆盛のようですが、こちらは官軍に占領された江戸の変化を、当時の筆文字で読み解きます。古文書がきっかけとなったことがある方を対象に、激変する江戸を庶民目線で考えます。

【一般(文学系)]女筆を読む一仮名と女性手紙文一

【時間②】講師: 本学文学部人文学科教授 岩田 秀行

くずし字読解の能力をさらに高めたい! そのような方のための一般コースです。仮名文字経験者を対象に、おに流れるような女筆へと歩を進めていきます。流麗な書体を楽しみつつ、くずし字の世界へ分け入りましょう。

※各講座のシラバスについては、大学HPを参照してください。

くずし字読解コース

受講者特典

- 開講回数の8割以上に出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。
- 今学期(平成30年3月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

公開講座ダイジェスト 2017
跡見学園女子大学公開講座の記録

平成 30 年 3 月発行

発 行 跡見学園女子大学

〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2

電話 03(3941)7420

FAX 03(3941)8333

E-mail d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp

URL <http://www.atomi.ac.jp/univ/>
